

生活支援コーディネーターが

住民の やる気を 支える 支援の手引き

令和元年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業

基礎自治体や中間支援組織等による住民主体の活動を
促進するための手法に関する調査研究事業

一般社団法人
全国食支援活動協力会

平成 30 (2018) 年度、私たちは厚生労働省老人保健健康増進等事業「地域住民の社会参加活動等を基盤とした互助促進の手法に関する調査研究事業」を行い、住民のやる気を支える視点を持った団体評価の手法を「住民のやる気を支える支援の手引き」で提案しました。この冊子は昨年度制作した手引きの内容をさらに検討し、地域で活動する生活支援コーディネーターのみなさんが住民活動を立ち上げたり、支援したりする現場で活用できるように改編したものです。

この冊子の基にあるのは、人口減少・超高齢社会に対応できる地域社会をどうつくったらよいかという問いです。身体と心の健康、孤立や孤独に陥らないための社会的関係の構築、日常生活の自立といった多様な課題に対して、これからは地域住民やボランティアによるインフォーマルな取り組みを増やしながら介護予防や生活支援の体制をつくっていく努力をしなければなりません。

高齢者の介護予防や生活支援を住民参加でつくろうとすると「やる気がある地域住民がない」「ボランティアがない」という声も聞きます。では地域の課題解決に関心がある人は全くいないのか、というとそんなことはないようです。近年、特に制度にはない自宅を使つての住み開き、コミュニティカフェ・地域食堂などの地域の人に参加できる“居場所”の取り組みが大きく広がりました。また、子ども食堂の活動も全国的に広がっています。地域に開かれた参加の場は多様な人の“居場所”になり、新しい取り組みが動き出す土壌にも成り得る可能性があります。

孤立や孤独、食事や家事や移動の日常生活、介護や認知症など高齢者の生活課題は山積みです。しかし、生活支援を住民参加でつくっていくのであれば、課題から考えるだけでなく、他者のためになにかをやりたいと考える人の「やる気」を積極的に育ててやる気のある人を増やす、という発想の転換をしてみてもどうでしょうか。

生活支援コーディネーターなどが、特に居場所活動の開発を行う場面を念頭に置き、アセスメントと支援計画の立案を支援するツールとしてこの冊子を作成しました。ニーズ（困りごとや足りないもの）重視からアセット（強みや良さ）重視へと視点を転換することにより、信頼感を醸成し活動への動機づけを高めていくための手法がまとめられています。ぜひ多くの方に活用していただき、相互扶助の基盤づくりへとつながることができれば幸いです。

この手引きでは
住民活動を支援する時の
発想の転換と具体的な方法
（活動支援プランニングシートを使った進め方）
をご提案します。

はじめに

第1章 考え方 P5

- [1] ニーズ重視とアセット重視 P6
 - (1) 住民活動の立ち上げに難しさを感じていませんか？ P6
 - (2) 視点の転換 アセット重視で考えてみる P8
 - (3) アセット重視の考え方の特徴 P12
- [2] 「アセット重視」で支援するって…
 - いったいどうやってやることなの？ P16
 - アセット重視で考える、住民のやる気を支える支援の POINT 1
 - 今ある“強みや良さ”（アセット）を見つけて共有する P16
 - アセット重視で考える、住民のやる気を支える支援の POINT 2
 - 地域資源を把握しつなげて、支援計画を立てる P18
 - アセット重視で考える、住民のやる気を支える支援の POINT 3
 - 活動を価値づけて、共有する P20
 - アセット重視で取り組みやすい
 - 様々な取り組みが生まれる可能性がある 参加型の居場所 P22
- [3] 人はどんなときにやる気になるの？
 - 《協働的な態度について》 P24
 - (1) 住民の「やる気」を高めるために P24
 - (2) 協働的態度の心構えと技法 P25
 - (3) 現役コーディネーターに聞いた「やる気」を高めるためのヒント P28

第2章 活動支援プランニングシートを使った進め方 P31

- [1] 活動支援プランニングシート P32
 - (1) シート使用場面のイメージ P32
 - (2) シートの構成 P33
 - (3) シートの使い方の流れ P34
 - (4) 活動支援プランニングシート P35
- [2] 活動支援プランニングシートの使い方 P40
- [3] 活動支援プランニングシートを使った事例紹介 P58

付録 P69

- 地域資源マップ
- 支援メニューの例
- 地域資源の活用から見た事例紹介

第1章 考え方

[1] ニーズ重視とアセット重視

(1) 住民活動の立ち上げに難しさを感じていませんか？



地域には課題がたくさん
どの制度に当てはめると解決
できるかな。。。

交流の拠点が
できるといい
よね。でも町
会ではこれ以
上の活動はで
きないよ…



一人暮らしの多い地域
に交流拠点が必要だ。
3年後には立ち上げたい。町会にお願いにい
こうかな。
やってくれるかな。。。

話し合いって
いわれても、
私はたいした
こと言えない
から…



居場所づくりをめざして、
地域で話し合いの場をも
たないと。
誰に声をかけたらいいか
な。。。

お年寄りの居場
所づくりがしたい
わけじゃない…



親子サロンをつくりたいっ
て相談を受けたけど、
やって欲しいのは高齢者
サロンなんだけどな。。。

歩いて行ける範囲
に、サロンが立ち上
がるといいけれど。
担い手と場所の当
てがない!



身近な場所にあつたら
参加したいけれど…

できることなら手
伝いたいけど、あ
そこは遠くて通え
ないな…



この地区には体操
教室がないから、
使わなくなった施
設を有効活用しよ
う。やってくれる
人を探さないと。。

地域にある課題を、「解決しなきゃいけない」視点で取り組んだり、
今ある制度や、すぐに思いつく資源で対応しようとする、
行き詰まりを感じてしまうのでは？

(2) 視点の転換 アセット重視で考えてみる



人の“やりたい”思いを大切に、
今ある、持っていること(アセット)
から始めて、

つなげて、
つなげて、



料理が大好きだから、みんなで
食べたり教えあったりメニューを
考えたりする活動をしてみたい

男性限定の「男
の料理教室」を
やっています



地域のおまつりで「流しそうめん」をやりたいねとアイデアが
出た。力仕事なので男の人の
手助けが欲しい。
誰か手伝ってくれないかな?

自宅の居間でみんなで集まってなにか
やりたい。
マーじゃんは認知症予防になるし、
男性も興味を持つんじゃないかな



授業で孤独死について勉強した。
自分もなにか役に立ちたい!

若者から年寄りまで一人暮らし
の人が増えている。経営してい
るカフェで近所の人同士の交
流イベントとかできないかな?
楽しそう



夏休み中、家にばかりいる子どもたち
が、体験できることはないかな?
昨日、ご近所の高齢者が
「入院するので、ペットの
散歩どうしよう」と困っ
てるって聞いた



動物のお世話したい!!

住民のできること、やってみたい動機から始めてみませんか?
見落としている「アセット」はありませんか?



地域で住民主体の活動をもっと増やせるといいけど…
「今までのやり方だとうまくいかない」
「『活動したい』と相談に来る人がいない」
「地域資源が繋がらない」
という声がありました

一方で、
「住民の様々な思いや気持ちをしっかり受けとめつつ、伴走した支援ができれば、住民の方々は楽しみながら活動してくれます。近々、新しい住民活動が立ちあがる予定です」
という声もありました



No. _____
Date _____

今、地域住民の
社会参加がうまくいかない
積極的に地域活動をする人はいない
と感じているなら
発想を転換してみませんか？

(3) アセット重視の考え方の特徴



「住民のやる気を支える支援の手引き」
一般社団法人 全国食支援活動協力会編
平成30年度報告書より

ニーズ重視とアセット重視

「アセット(資産)」重視という発想をご紹介します。これは、従来の「ニーズ(必要)」重視のアプローチへの反省から生まれてきたものです。

近年、世界的な潮流として、健康・福祉のための公共サービスについての考え方(アプローチ)が大きく変わりつつあります。アセット重視の考え方(アセット・ベスト・アプローチ)は各国で注目され、関連する政策や研究が増えてきました。(本章では次の文献を参照しました。Garven,F,J.McLean and L.Pattoni,2016,Asset-Based Approaches:Their rise,role and reality,Dunedin Academic Press.)

ニーズ重視は、現在でも主流の考え方です。ニーズ重視とアセット重視は、けっして対立するものではありません。また、単純に入れ替わるような関係にもありません。それらは、互いに補い合うものです。そして、アセット重視のアプローチは、まったく新

しいものというわけではなく、これまでさまざまな形で提案されてきた考え方や手法を総合したものです。日本の先進事例も含めて、アセットという言葉を使わずに、同じようなアプローチが実行されていることは少なくありません。

まずはニーズ重視の考え方の特徴から見てみましょう。それは、ニーズを抱えた人に的を絞って、サービスやお金などの資源を集中的に投入することで、社会の健康・福祉が向上するという考え方です。ニーズ重視の考え方は、「ないもの」に着目します。なかでも、特に急を要し、重大なものが優先されます。このアプローチでは、病気や身体・認知機能の低下によって健康・福祉が損なわれたときや、そのおそれがあるときに、必要なサービスを提供し、欠けたところを補うこと、または、その

ための基盤を整備することが、公的機関の役割とされます。

ニーズ重視の考え方が想定する住民像は、専門職が提供するサービスの受け手です。このため、住民参加の度合いは低くなります。住民が参加するとしても、専門職が主導する場面が多くなります。また、取り組みの時間幅は、ニーズがみだされるまでの期間に限定されます。そして、サービスを評価する際には、客観性が重視されます。

まとめると、「なぜ病気になるのか?」、そして「いかにして素早く治療するか?」が、ニーズ重視の考え方の基本的な問いであると言えるでしょう。

では、アセット重視の考え方とはどのようなもののでしょうか。ここでいうアセットは、健康・福祉を促進し、またはそれらを失うことを防ぎ、より根本的には、生きる上での選択肢を増やし、自由を拡大する、さまざまな資源のことを指しています。

アセットには物やお金も含まれますが、心理的な側面(誇り、熱意、自信、有意味感、目的、楽観性、一貫性など)や、社会的な側面(知識、経験、技能、ソーシャル・キャピタルなど)も、大事な構成要素とされます。これらのアセットは、個人がそれぞれ別個に有しているというよりも、人と人の「つながり」のなかに蓄えられています。

アセット重視の考え方は、「あるもの」に着目します。その前提には、人が、健康・福祉を維持・向上するための力を有しているという見方があります。公的機関の役割は、住民や地域が持つ様々なアセット(強み)を伸ばすことです。そこで想定される住民像は、サービスの受け手というよりも、共同で問題の解決をはかるパートナーです。当然のことながら、住民参加の度合いは高く、専門職が関わるとしても、住民が主導する場面が多くなります。

ただし、住民の強みと対応能力を伸ばす取り組みには、長い時間がかかります。そして、個人というよりもコミュニティが対象となることから、空間的な広がりをとまいません。さらに、サービスを評価する際には、客観的な指標だけでは不十分で、主観的な要素を組み込む必要があります。

ニーズ重視の考え方とは対照的に、「なぜ健康になるのか?」、そして「いかにして長く健康を保つか?」こそが、アセット重視の考え方の基本的な問いということになります。(東京大学:祐成 保志)

「アセット」は、一般的には財産や資産という意味で用いられる言葉ですが、ここで言う「アセット」は、地域の健康や福祉にとってプラスになる様々な資源のことを指しています。地域福祉のアセットには「モノ」や「お金」だけでなく、心理的・社会的な「誇り」「熱意」「知識」「経験」なども含まれ、これがとても重要な要素です。

アセット重視の考え方では「あるもの」に着目します。すでにあるものを持ち寄って、地域のためになができるかを考えます。この前提にあるのは、「人は、健康・福祉を維持・向上するための力を持っている」という見方です。

特徴

・アセットの構成要素

- ◎「モノ」「お金」だけでなく
- ◎心理的な側面（誇り、熱意、自信、有意味感、目的、楽観性、一貫性など）や
- ◎社会的な側面（知識、経験、技能、ソーシャルキャピタルなど）も、大切な構成要素
個人が有しているというより、人と人の「つながり」の中にある

- ・着眼点：「あるもの」に着目
- ・対応の仕方：人が、健康・福祉を維持向上するための力を持っていることを前提に、その力を強みとして伸ばすことが公的機関の役割
- ・住民との関係：住民と共に。協働で問題解決をはかるパートナー
- ・主な対象：個人よりも空間的な広がりを持つコミュニティ
- ・時間幅：長い時間がかかる
- ・住民参加の度合い：高い。主導する場面も多くなる

これまで地域の課題や困りごとへの対応を軸に住民活動の立ち上げをすすめる中で、「うまくいかないな」と難しさを感じていたなら、少し視点を変えてみませんか？

住民が本来持っている「アセット」を“強みや良さ”として伸ばすことで、地域の介護予防や健康増進が期待できるかもしれません。「アセット」を引き出して、主体的な活動になるような住民のやる気を支える支援について考えてみましょう。

コラム

「アセット重視の考え方を活かした保健・福祉施策」

保健・福祉分野でのアセット重視の考え方は、近年、イギリスで取り入れられ成果をあげています。2010年代に緊縮財政を経験したイギリスでは、保健・福祉分野における公的資金や利用できる資源が不足し、健康格差の拡大が顕在化しました。その解決策として打ち出された考え方のひとつが、アセット重視の考え方です。

保健・福祉分野での公的サービスは、利用者のニーズに基づいて提供されるのは言うまでもありません。しかし、限られた予算・資源では、公的なサービスですべてのニーズを満たすことはますます難しくなっています。対処しきれないニーズをそのままにしておくことは、健康格差につながります。そこで、注目を集めているのが、サービスの利用者や地域コミュニティの参加を通して、地域住民のやる気を促すアセット重視の考え方なのです。

アセット重視の考え方では、顕在化したニーズへの対応として地域住民が必要とするサービスを住民自らが提供することに加えて、ニーズそのものが発生することの予防に重点がおかれます。地域住民が持つアセットに注目し、地域住民ができること・やりたいことからサービスを組み立てることにより、地域住民の主体性を最大限に活かす方法です。この考え方を取り入れたイギリスの自治体では、保健・福祉サービスに対する住民の高い満足度とニーズの削減との両立を実現しています（イギリス・ケンブリッジシャーの事例）。
（産業能率大学：中島 智人）

[2] 「アセット重視」で支援するって…いったいどうやってやることなの？

アセット重視で考える、住民のやる気を支える支援の POINT 1 今ある“強みや良さ”（アセット）を見つけて共有する

「やる気のある人になかなか会えません」という生活支援コーディネーターの声を聞きました。もしかしたらそれは、「行政や社会福祉協議会がして欲しいことをやりたい人がいない」ということなのかもしれません。思いのある人の話を聞いて、その人が今持っている“強みや良さ”を把握することからすすめましょう。

■まずは相手の思いをよく聞くことから

地域の集まりやボランティア講座などで「地域で人のためになにか活動をしたい」という思いを持った人に会ったら、思いや意向を詳しく聞いてみましょう。「よく聞く」とは、コーディネーターの価値観や既存の施策に当てはめながら聞くのではなく、相手の話を先入観なく受けとめることです。思わぬ“強みや良さ”が分かるかもしれません。その“強みや良さ”がアセットです。思わずこぼす言葉もキャッチしましょう。

- たとえば…
- ▶ 地域の中で集まれる場をつくってみたい
 - ▶ 閉じこもりがち近所の高齢者のことが気になっている
 - ▶ 楽しいことなら友人も一緒にやりたいと言っている
 - ▶ 空いている部屋があって、住み開きに興味がある

■小さなことでも価値があり、小さなことからでも始められることを示す

はじめからボランティアメンバーが十分に揃わなくても大丈夫。少ない人数でもできることから始めればいい。人の気持ちは不思議で、肯定的に認められることで気持ちが前向きになります。

■マイナス面ではなくプラス面を見つける

助成事業など制度の枠に当てはめると、条件を満たしているかどうかマイナス面に目がいきがちです。アセット重視の考え方では、マイナス面からではなくプラス面から見つけていきます。

- たとえば…
- ・構成メンバー 3人しかいないからマイナスではなく **3人もいる** と捉える
 - ・会則の有無 会則がないからマイナスではなく **役割分担や活動日の運営ができています** と捉える
 - ・対象者 対象者が絞り込めていないからマイナスではなく **多様な人が参加できる** と捉える

■住民の要望をかなえるのとはちょっと違います

熱意がある住民から「こんなことしたいから社協で支援して欲しい!」「支援がないとできない!」と言われたときはどんな関わりをすればいいのか迷います。その活動は営利や政治・宗教の布教を目的としていないでしょうか。その人は地域課題を感じているのでしょうか。またその活動は地域社会にとってどんな価値があるのでしょうか。そのあたりを把握し判断するコーディネーターの目が必要です。

「今ある“強みや良さ”ってなに? どんなこと? アセット=今ある“強みや良さ”の例

人に関すること

- ★仲間がいる
- ★住民主体の活動である
- ★様々な世代・立場の人がいる
→ 担い手がありますね!
- ★利用しそうな人がいる
- ★地域の人が多く参加する
- ★様々な世代・立場の人が参加できる
- ★利用者も担い手になることができる
→ 参加者がいますね!



場に関すること

- ★場所が確保できている
- ★アクセスしやすい場所である
- ★空き家や空き店舗を活用している
→ 場所がありますね!



モノ・資金に関すること

- ★モノ・資金が確保できている
- ★モノ・資金を提供する人がいる
→ モノ・資金がありますね!



情報・ネットワークに関すること

- ★地域の多様な機関との連携がある
- ★専門職と連携している
→ 情報・ネットワークがありますね!



運営に関すること

- ★定期的に運営している
- ★メディアを通して活動の広報ができる
- ★活動計画が立てられる
→ 運営ができていますね!



“強みや良さ”を把握するガイド「アセット項目チェックリスト」P36に掲載

アセット重視で考える、住民のやる気を支える支援の POINT 2

地域資源を把握しつなげて、支援計画を立てる

「地域資源がなくて」という生活支援コーディネーターの声を聞きました。

アセット重視の視点で取り組むなら、前もってコミュニティ全体を眺める視点でなるべくたくさんの地域資源を把握しておきます。いざというときに支援計画として生きてきます。

■ すぐにマッチングできなくても、たくさん引出しを増やすつもりで

「いつか支援計画に活用できるかも」というアンテナを常にはっておき、地域資源の引出しを一つ一つ増やしていきましょう。今直面している課題にすぐに活用できなくてもいいのです。手持ちの札が増えれば、必要なときに「あっ、あれをつなぐといいかもしれない」とピンときて、思いもよらない化学反応がおきるときがきつとくるでしょう。

- えたとばとば…
- ▶ 「子どもの居場所に来ている小学生」が、数日入院する高齢者の「犬の散歩」をお手伝い
 - ▶ 居場所までの送迎に、デイサービスが使っていない時間帯で車両を貸してもらえることに

■ 小さな動き、一見福祉とは違う分野の活動も、大切な地域資源

これまで「地域資源」と認識されてこなかった小さな活動や、一見福祉とは違う分野に感じられて見過ごされてきた活動も、大切な地域資源です。

- たとえは…
- ▶ 数人の仲間で行っている、編み物や囲碁将棋などの趣味の集い
 - ▶ 犬の散歩で出会う顔見知りの人たち
 - ▶ 環境や災害などをテーマにしたくまづくり活動

■ 別の角度からも考えてみる

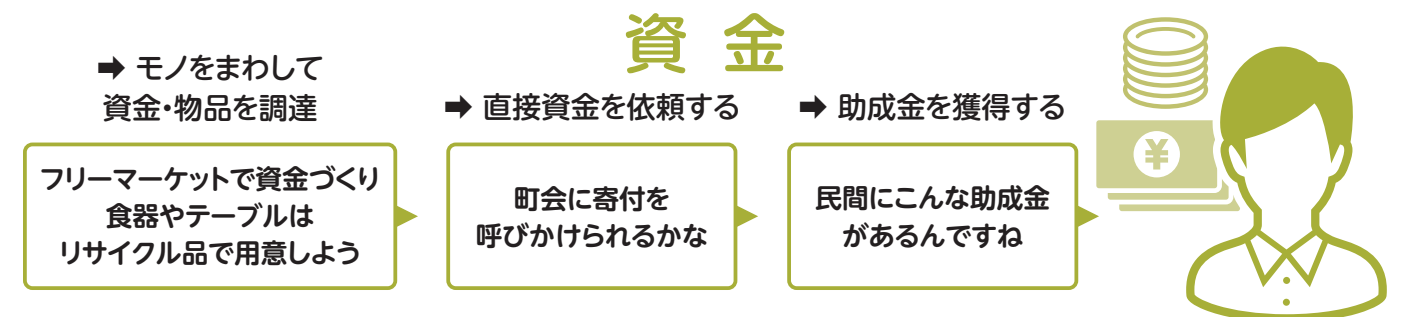
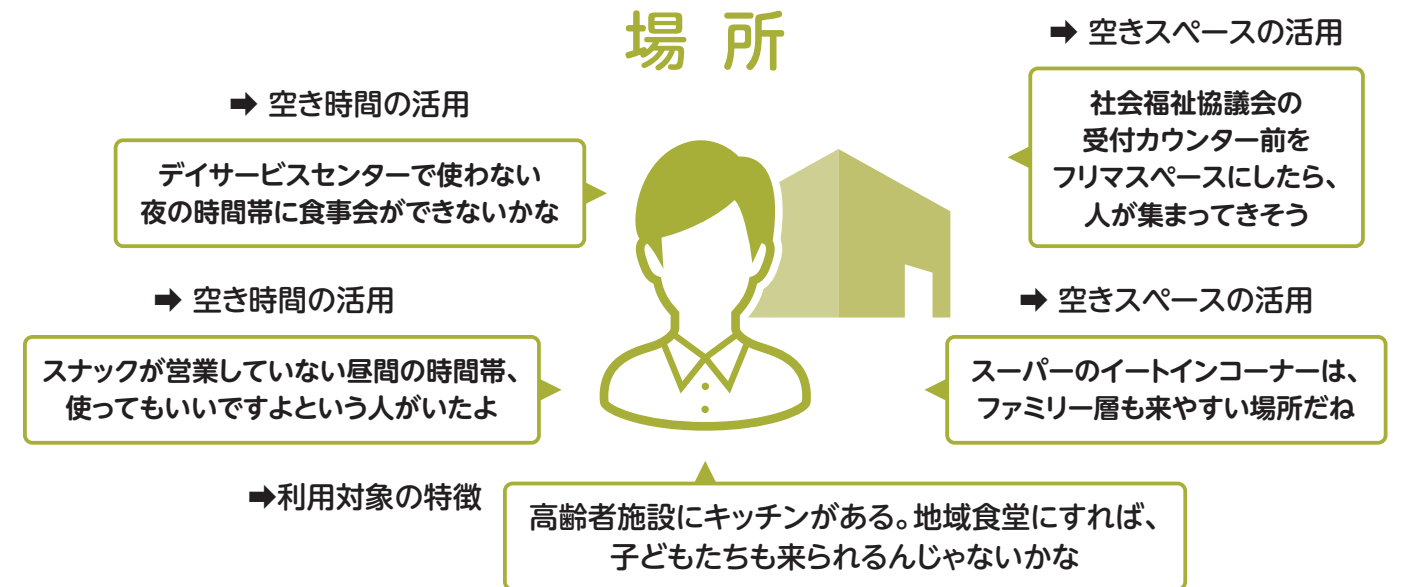
会場探しをするときは、公共施設の一般貸出しの会議室を思い浮かべるだけでなく、ロビーや受付の前は使えないか、すでに使っている部屋で空いている時間はないかなど、別の角度からも考えてみましょう。人材やモノ・資金などについても、様々な切り口から考えます。

■ “強みや良さ”が活かせる支援を考える

どんな地域資源をつなぐと活動の“強みや良さ”が活かせるかを考え、支援計画を立てます。“強みや良さ”を活かした支援は、「できそうな気がしてきた！」という気持ちにさせ、住民のやる気を奮い立たせることにつながるでしょう。(参考：P72～73 “支援メニューの例”)

- たとえは…
- ▶ 人・担い手支援：ボランティア団体や地域包括支援センターなどの専門職へ、担い手として関われるかを相談
 - ▶ 人・利用者の支援：参加者募集の広報支援や、交通手段がない参加者の送迎について可能性を検討
 - ▶ 場の支援：公共施設利用の手続き支援や、民間スペースの貸出し情報の提供
 - ▶ モノ・資金の支援：助成金の情報提供や申請書の書き方支援、寄付物品のマッチング
 - ▶ 情報・ネットワーク/運営状況の支援：意見交換の場の設定、先進事例見学の同行、取材の働きかけ
 - ▶ 運営基盤の支援：話し合いでの合意形成のサポート、活動やミーティングに参加、事務局機能を担う

「地域資源ってなに？ これって地域資源になる？」



地域資源をみつけるヒント“地域資源マップ”
支援計画を立てるときのヒント“支援メニューの例”をP70～73に掲載

アセット重視で考える、住民のやる気を支える支援の POINT 3 活動を価値づけて、共有する

活動の“強みや良さ”を把握し (POINT1)、地域資源をつなげて支援計画を立て (POINT2)、その活動が実現したら、その先にどんなことがおきるのでしょうか。将来期待できそうな成果や高まった価値を評価し、共有しましょう。ここで言う「評価」とは活動に点数をつけることではありません。プラス面を積極的に価値づける「評価」です。

価値の評価軸は様々で、活動回数や参加人数の多寡が評価されることもありますが、ここでは安心して住みやすい地域づくりにつながるかの視点で考えます。

■小さな活動も価値があることを伝える

「集まっておしゃべりしているだけで、地域に役立っているなんて大層な…」と感じる住民の方も多そうです。そんなとき「こうした活動こそが、地域の見守りにつながる活動ですよ」と、価値を見つけだすことが大切です。自分たちの活動に公の価値があるとわかることで、仲間内の活動の認識から、新しい人を受け入れることに意識が切り替わるなど、さらに地域に役立つ活動に発展していくきっかけになります。

■言葉にして認識することで、めざすものを明確にする

「お互いさまだから」「楽しくやっているだけ」と、価値を自覚していない人もいます。だから、この活動が行われたら、どんな価値が生まれるのか、住民と支援者が一緒になって考え、言葉にして認識することが大切なのです。活動のめざしていることの価値が明確になることで、さらに住民はやる気になります。

■誰にとっての価値か

住民側と支援者側では価値観が分かれることがあるかも知れません。支援者の価値観を押しつけてしまうと、「やらされている」と感じて住民のやる気は冷めてしまいます。あくまで活動の主体は住民にあることを忘れず、一方で地域の課題を伝えながら、尊重しあって価値を共有していくことが求められます。

■地域の人とも価値を共有する

活動を始めて一年後を目安に、振り返りの機会を設けましょう。新たに生まれたり、さらに高まった価値はないかを住民と支援者と一緒に確認します。

また、利用者や活動に関わっていない地域住民に、活動を紹介する機会をもちましょう。活動内容だけでなくどんな価値があるかを伝えることが大切です。地域で活動が認められることで、さらに住民のやる気は支えられます。

〔 価値ってなに? どんなこと? 〕

地域性

<p>住民</p> <p>いつも来ている人が今日はお休み。帰りに寄ってみます</p>	<p>支援者</p> <p>心配な人を気にかけている活動ですね</p>
★心配な人を気にかける目を増やせる	

<p>住民</p> <p>おしゃべりしてたら、ゴミ出しに困っているという話を聞いてちゃって</p>	<p>支援者</p> <p>さらなる地域課題が見つかりましたね</p>
★さらなる潜在的な地域課題を発見する	

開放性・展開性

<p>住民</p> <p>カフェの空き時間での会食会は、商店街を歩く人に声かけやすくして参加者が増えているよ</p>	<p>支援者</p> <p>誰でも利用しやすい活動になっていますね</p>
★誰でも利用者になれる	

<p>住民</p> <p>「この活動を見学して自分もやってみたいと思った」と言われました</p>	<p>支援者</p> <p>モデル的な活動になりましたね</p>
★後発の団体・取り組みが生まれる	

継続性

<p>住民</p> <p>活動のあと、お茶を飲みながら反省会と次回の活動の内容を決めています</p>	<p>支援者</p> <p>運営の仕組みが確立しましたね</p>
★運営の仕組みや体制が整備されている	

<p>住民</p> <p>自分たちでも資金調達しようと、町内会に呼びかけてフリマの品を集めました</p>	<p>支援者</p> <p>資金調達は、継続のために大切ですよね</p>
★継続のための資源(場・資金・備品など)が調達できる	

課題解決性

<p>住民</p> <p>「この地域に住んで10年、初めて近所の人と話した」と言う参加者がいた</p>	<p>支援者</p> <p>孤立していた人を地域とつなげましたね</p>
★孤立している人を減らせる	

<p>住民</p> <p>「高齢の、特に男性の食事は偏りがあって心配」から始まった地域食堂です</p>	<p>支援者</p> <p>子どもの参加が必須の制度でしたが、高齢者にも適用できるようになりました</p>
★施策横断的な取り組みや施策づくりのきっかけになる	

施策適合性

<p>住民</p> <p>ワンコインでゴミを出す活動を始めました</p>	<p>支援者</p> <p>高齢者が安心して地域に住み続けることができますね</p>
★生活支援によって高齢者が安心して生活できるようになる	

<p>住民</p> <p>地域食堂のスタッフは、自分も楽しいからお手伝いしている人が多いです</p>	<p>支援者</p> <p>スタッフの生きがいにもなっているんですね</p>
★高齢者の生きがいづくりができる	

“価値”を把握するガイド「価値項目チェックリスト」を38に掲載

様々な取り組みが生まれる可能性がある 参加型の居場所

■あるものから：気のあう仲間と、自宅でもできる

居場所には様々なタイプがあります。毎日オープンしている常設型もあれば月1回少人数で集うもの、活動内容も会食会、健康体操、学習支援など決まっているところもあれば、特にプログラムはなく各々好きなように過ごすところもあります。

居場所づくりは、使える地域資源が限られていても、今あるものから始められる活動です。気の合う数人の仲間と、自宅の一室で、月1回、特にプログラムを考えずにお茶だけ用意している居場所はたくさんあります。

自分たちの考える自由な集いの場なら、やってみたいと思う人はいるのではないのでしょうか。

■住民活動の基本：担い手と受け手が、同じ立場でともにいられる場

地域での活動は、お互いさまの関係づくりが大切です。

居場所の最大の特徴は、同じ立場でともにいる関係づくりがしやすいことです。たとえば、食事を提供するとき、小さな子どもも配膳をしたり、スタッフと参加者が一緒にテーブルについて食べたりすることで、年齢や役割に関係なく平等に交わることができます。ともにこの場をつくっていることが、生きがいややる気を支えることにつながります。

■子どもから高齢者の参加、若い担い手による、多世代の交流が生まれる

住民参加による生活支援サービスは、担い手の高齢化、不足が指摘されていますが、子ども食堂・地域食堂、子どもや多世代を対象にした居場所は、勢いがある分野です。勢いは、数が増えているだけではありません。担い手の年齢層が若いことも大きな特徴です。担い手の半分以上が現役世代（64歳以下）で、40歳未満の参加率も高いという調査結果が出ています。さらに、子ども食堂で高齢者の受け入れをしたり、高齢者の食事会を多世代の地域食堂にする活動も増えてきています。

居場所は多世代の交流の場になり、若い担い手の参加も期待できる可能性を持っているといえます。

■食は人を集めてつなぐ

食事の提供を中心に据えた居場所も数多くあります。美味しいものをみんなで一緒に食べる楽しみは、人と人を結びつける営みであり、地域文化にもかかわる多面性があります。さらに手づくりの食事の良さは、食べる人の健康や好みを考えてつくられること。「おいしいものを食べてうれしい」「おいしく食べてもらえてうれしい」気持ちのやりとりができます。

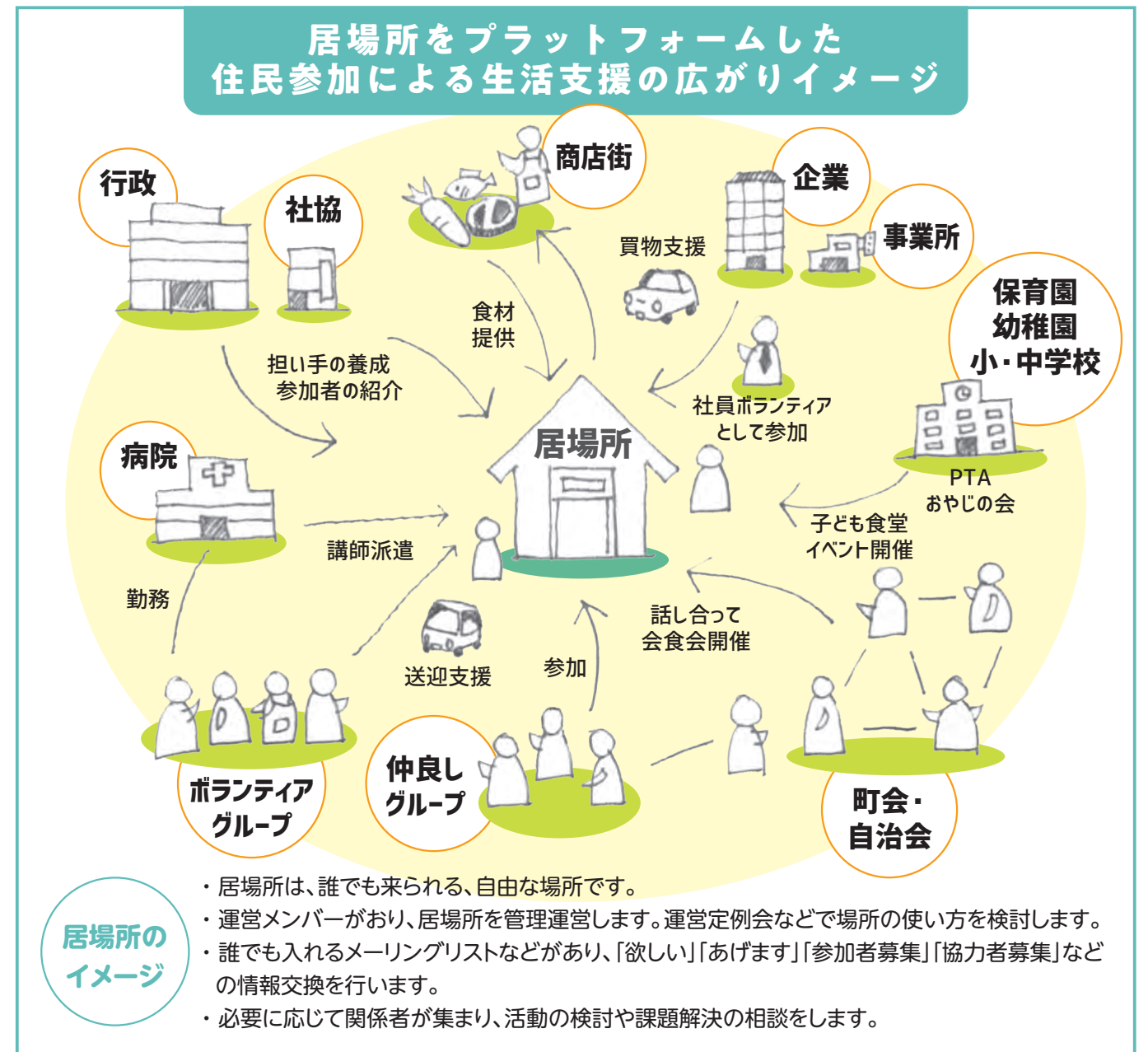
「食」は、人々を集めてつなぐ役割を果たす機能が、極めて大きいと言えます。

■人が集まることで、みんなの欲しいものがわかる

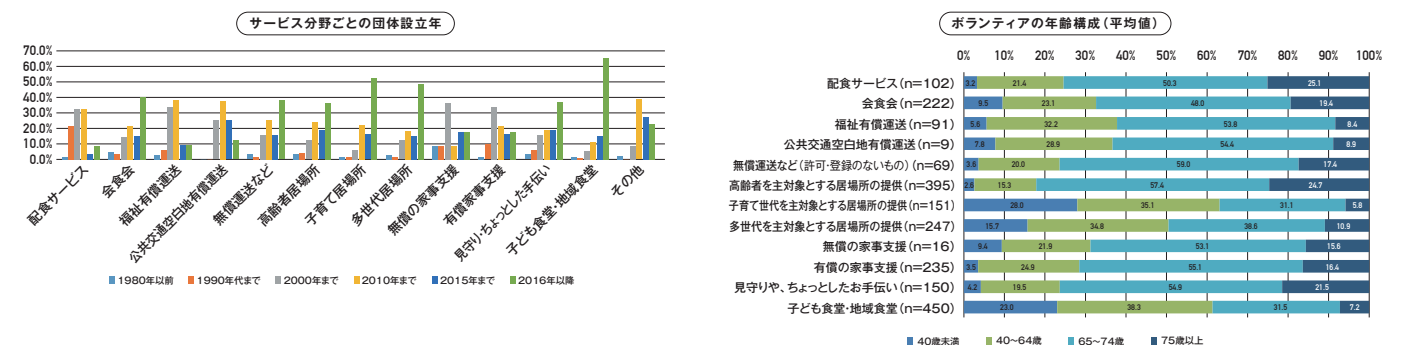
本当の困りごとは、正面から「困ってませんか」と聞かれるよりも、何気ないおしゃべりの中からポロリとこぼれ出ることが多いようです。

人々が集うことで、お互いの困りごとを知る機会になり、居場所から、会食会や子ども食堂・地域食堂といった活動や、買物支援、移動支援、食材・惣菜の提供といった派生サービスが生まれた例もあります。

居場所は、地域の生活支援のプラットフォームになり得る取り組みです。



近年増えている活動と、担い手の年齢構成



グラフは、住民参加による生活支援サービスの支援の実態と評価の視点の把握を目的に実施した「行政・社協向け」と「運営団体向け」のアンケート調査の結果をまとめたもの。一般社団法人全国食支援活動協会編「住民のやる気を支える支援の手引き」[平成31(2019)年3月]より引用。

[3] 人はどんなときにやる気になるの？《協働的な態度について》

住民が積極的に活動を持続していく、そんなやる気を高めるためにはどうしたらいいでしょうか。
ここでは、住民側の動機と、支援者側の心構えと技法に分けて記載します。

(1) 住民の「やる気」を高めるために

ボランティア活動には内発的動機づけが必要

人が目標に向かって行動を起こしたり、その行動を続けたりするための原動力としての「やる気」を動機づけといいます。金銭などの報酬が得られることによって生じる動機づけを外発的動機づけと言います。一方で人は、自分がやりたいこと、好奇心をもてること、人に認められることに動機づけられます。このような動機づけを内発的動機づけといい、自発的なやる気ということができます。

内発的動機づけが高まる一番の要因は本人にとっての興味や好奇心、楽しさです。自分が関心を持ち、やりたいと思っていることには、内発的動機づけが高まり、それによって行動を始めたり、継続させたりしていくことができます。ボランティア活動の一番の原動力はこの内発的動機づけにあります。

内発的動機づけを高める「自律性」、「人間関係の良さ」、「有能感」

内発的動機づけを高める要因は、好奇心以外にもいくつかあります。1つは、自分の目標に価値があると思えることとその目標が達成できそうだと感じられること（有能感）が必要です。まず、自分が選んだ目標に価値があると思えることが大切であり、そのためには、周囲から社会的に価値を認めることが大切です。地域のことを考えて、なにか活動しようということはとても重要な決意です。まずはその活動をしようという意思を認めることが活動への内発的動機づけを高める第1歩です。そして、その目標に向けてどのように行動したらうまく目標を達成できるのか、その道筋が明確になるほど実際に行動をしようという内発的動機づけが高まります。活動に必要な情報提供や助言はやる気を高めます。

もう1つは、自分で決めること（自律性）が重要です。目標や方法を自分で決められる自由度がある方が内発的動機づけは高まります。逆に、ルールに縛られすぎる、他人の言うことばかり聞かないといけなといった状況は「やらされ感」が高まり、内発的動機づけが低下してしまいます。一方で、生活支援コーディネーターとして、住民活動やボランティアにやって欲しいこともあると思います。しかし、その要望や制約が強すぎると、ボランティア側の「やらされ感」が高まりやすくなります。ボランティア活動は自発性が大切です。「やらされ感」が高まりすぎると活動への内発的動機づけが低下してしまいます。また、押しつけられていると感じるような関係ができてしまうと、もうこちらの話すら聴いてくれないこともあります。

どうしたら、こちらの言うことに耳を傾け、こちらの考えていることをやってみようかなと考えてくれるのでしょうか。そこには好感や信頼感といった「人間関係の良さ」が前提です。良好な人間関係があるからこそ、こちら話を聴いてくれるのです。そのために、まずは相手の話を聴き、信頼感をつくっていくことが大切です。「この人の言うことなら少しは聴いてみようかな」と思えるのです。まずはこちら話を聴かせる前に相手の話をよく聴くこと、その人のやりたいことを尊重することが大切です。

(2) 協働的な態度の心構えと技法

住民の「やる気」を高めるためには、良好な人間関係をつくっていくような協働的な態度が大切です。

協働的な態度の背後にある基本的な考え方

協働的な態度の背景には以下のような考え方があります。うわべだけの良好な関係をつくっても長い期間の中で本音が見抜かれてしまいます。

・内発的動機づけを阻害する言動をしない

まず、相手にいじわるをしない、けちをつけないことが大切なのはいうまでもありません。こちらの価値観や考え方、求めることを押しつけないで相手の強みや良さを積極的に評価することが関係づくりの始まりです。

・話を聴く姿勢を示す

基本的態度として、相手の話を聴こうとすることが大切です。話を聴こうとする気持ちが根底に求められます。

・熱意を持って対応する

相手を支援しようとする必要があります。そのためには、支援の方策を全力で考える、時折訪問して活動を見ろといったことが大切です。

話を聴くときの基本的な姿勢や行動

相手の話を聴こうとする気持ちが相手に積極的に伝わるように話すことがとても大切です。特に、初めて話しをするときには、相手も非常に緊張して、こちらがどのような人か探っています。わずかな手がかりを頼りにして、「この人は話をちゃんと聴いてくれるか」「騙されたり、ひどいことを言われたりしないか」と警戒や心配をしながら話をしているのです。支援者の側がコミュニケーションの配慮をしながら、良い関係を構築していくことが大切です。

●話を聴く基本的態度・姿勢

視線・まなざし

話を聴くときには基本的に視線を向けましょう。メモや資料ばかり見ないようにしましょう。ただし、凝視しすぎると心の中を覗き込まれているように感じられることがありますので時々視線を外します。ただし、視線を向けるときは数秒間は必ず向けるようにして、「ちらっ」と見るのはやめましょう。

目線

同じ高さになるように
同じ椅子に座りましょう



表情

困った顔や不快そうな顔をしないようにしましょう

くせに注意

腕組や脚組は威圧的になるのでやめましょう

座る位置と姿勢

相手と90度の角度か、斜め向かいに座り、真正面に座るのは避けましょう。真正面に座ると強制感が高まりやすくなります。座る姿勢は、相手側にやや前傾した姿勢をとります。背もたれに寄りかかりながら話を聴くのは横柄な感じがします。

●話を聴いていることを積極的に示す応答をしましょう

・積極的にうなずき、あいづちをする・・・
深いうなずき、浅いうなずき、様々なあいづち

・反復を活用する・・・

相手の話のポイントを繰り返す、特に感情や意思を示した発言は繰り返して共感しましょう。

(例) 住民「男性向けの活動をなにかやりたいと思っているんです」

コーディネーター「男性向けの活動をやりたいと考えていらっしゃるんですね」

「はい」
「そうですね」
「ほほう」
など



●相手の話を引き出す、質問力と励まし

・基本は広がる(openな)質問を使う

閉じた(closedな)質問(はい、いいえで答えられるような質問)ばかり続けると事務的で押しつけられているように感じやすくなります。

・相手のやりたいこと、目標などを認める

相手にとっての良いこと、価値を感じていることに対してポジティブな感情を示す。

(価値を共有：やる気を高める)

・課題が発見されたら解決に向けて協力するなど、励ます

課題はそのまま放置すると不安になってしまいます。解決に向けて一緒に取り組んでいくことを話して励まします。

(例) コーディネーター「協力者はいますか？」

住民「いえ、いません」

コーディネーター「そうですね」

(ここで止めると「いない」結論で終わってしまい不安になります)

コーディネーター「では、見つける方法を一緒に考えていきましょう」

・解決策として提案があるときには、最後に同意を求める形式で言う

コーディネーター「…という方法もありますが、どう思いますか？」

(「提案をすぐにやりましょう」と伝えるのではなく、相手に必ず感想や同意を求めながら進めることが大切です)

「良いですね」
「面白そうですね」
「素晴らしい」



(日本大学：内藤 佳津雄)

(3) 現役コーディネーターに聞いた「やる気」を高めるためのヒント

住民活動の立ち上げ経験豊富な現役コーディネーターに、住民活動の「やる気」を高めるために大切にしていること、気をつけていることなど、現場で役立つヒントを伺いました。

最初に住民の話をお聞きするとき、気をつけていること

住民が相談に来たら、しっかり聞く

多くのコーディネーターから聞いた言葉です。

リラックスしてもらうことから

相談の窓口は敷居が高く、本当に困っている人ほど窓口には来ないです。ちょっと会ったとき、思わずつぶやくことを聞き逃さないようにしています。

相談にいらしたときは、まずはお茶を出します。それからちょっと雑談してリラックスしてもらい、相手の話をゆっくり聞きます。



Sさん
60歳代 女性
社会福祉協議会に勤務。
ボランティアコーディネーターなど歴34年。
元保育士。社会福祉士。

思いや考えを徹底的に語ってもらう

最初に住民の「思いや考え」を徹底的に語ってもらいます。自分たちの思いや活動理念を自らの口で語れることは強みです。後々、活動が煮詰まりそうになってもぶれません。

「活動を始めたいと思った背景や原点」「やりたい活動の具体的なイメージ」も語ってもらいます。

相談時にここまでイメージがない場合は、参考となる活動を紹介します。



Mさん
30歳代 男性
社会福祉協議会に勤務。
生活支援コーディネーター歴2年。社会福祉士。

住民の思いを引き出す「問いかけの言葉」

「よくわからないけれど、地域のためになにかやりたい」との相談があります。みなさんに主役になっていただきたくて「得意なこと」を伺っても、「なにもない」と答える人も多いです。

そんなときは「好きなことはなんですか?」と聞いています。



Tさん
40歳代 女性
社会福祉協議会に勤務。
コミュニティソーシャルワーカー(歴6年)、生活支援コーディネーターを兼務(歴3年)。社会福祉士・保育士。

住民主体の意識を高めるために、大切なこと

住民から「活動しよう」の言葉が出るまで待つのが仕事

計画段階では、何度も集まって話し合いをすることがあります。

住民から「いつまでも話し合っていないで、活動を始めよう」という言葉が出るまで待ちます。

社協が先に「こうしましょう」と言ったら、やらされ感が出てしまいます。だからその言葉が出るまで待つんです。

話し合いの日程も、住民の方の都合に合わせます。こちらの都合で決めたら「行けません」という人が出てきます。



Oさん
60歳代 女性
社会福祉協議会の事務局長。社会福祉士。

「楽しい」の連鎖が活動の原点に

活動の主役はあくまでも住民のみなさんです。コーディネーターを始め、専門職は裏方作業のお手伝いにすぎません。

「自分たちで、自分たちの地域を良くしたい」という気持ちを尊重し、みなさんが楽しみながら活動できるように後方支援しています。



Rさん
30歳代 男性
社会福祉協議会に勤務。
生活支援コーディネーター歴2年。

自分たちで必要性を感じて取り組む

住民が取り組む地域福祉活動の課題意識や重点項目は、住民が感じたものを尊重しています。住民自身が必要性を感じて、地域のことは自分たちでやろうと納得して取り組むことが充実した活動につながると思います。



Mさん

地域住民に、地域に必要な活動であることを伝え理解してもらう

新しく地域活動が立ち上がったなら、地域の人々に、どんな地域貢献をしている活動なのかを伝えていきます。地域の人たちに知ってもらい理解されることで、活動者のやる気がでて、活動が地域に根づいていきます。



Sさん

地域に新しい資源が生まれたことは、本当にすごいこと

住民主体の活動が立ち上がり、まちに新しい資源が一つ生まれたことは、本当にすごいことだと思います。まちの財産なんです。

だから広く認めて欲しい。行政やメディアにもアピールしますし、地域の人から「すごく助かった」という話を聞いたら小さいエピソードでも団体に伝えるようにしています。



Oさん

地域資源をつなげる工夫

集いの場（居場所）がもたらす支援の手

ボランティアと困りごとを抱える方が集いの場（居場所）を通して顔見知りになると、次の活動に発展していきます。

たとえば、ゴミ出しに不便を感じる方が「誰かにお手伝いして欲しいな」と思っている気兼ねしてなかなかお願いできないですね。

何度か顔を合わせ、会話をしていくうちに「じゃあ次のゴミの日にお手伝いに行くね」と、新たな支援が始まっていきます。



Mさん
30歳代 女性
社会福祉協議会に勤務。
生活支援コーディネーター歴2年。社会福祉士。

人が行き交う場所は、情報も集まり行き交う

今、相談窓口カウンター前をフリマスペースにしています。不要品を持って来る人、欲しいものはないかを見に来る人、いつも人が行き交います。地域資源を把握するひとつの方法です。



Sさん

次につなげる

たとえば、ボランティア保険加入に来た人がいたら、ただ手続きして帰すなんてもったいない。被災地支援に行くとき聞いたら「今度向こうの様子を教えてください」と伝えることで、次につながります。

関係なさそうでも紹介

新しい人やモノに出会ったら、その場で必ず誰かに、すぐに関係がなさそうでも紹介しています。一度つながっておくと、新しい活動が生まれることに必ず役立ちます。

丁寧に対応する

「手伝って欲しい」と連絡があったら、時間を調整し、すぐに行けるようであれば「すぐに行きます」と答えます。一度断ってしまうと、遠慮されて関係が切れてしまうこともあるからです。自分がすぐ対応できないときは、別の職員に時間が空いているか聞いて行ってもらうようにしています。



Sさん
30歳代 男性
社会福祉協議会に勤務。
生活支援コーディネーター歴4ヶ月。社会福祉士。

「すごいですね」という言葉をよく使うと、多くのコーディネーターから聞きました。技法として使っているのではなく、「本当にすごいと思っているから」だとも伺いました。

住民と支援者との信頼関係を築くことが根底にあることを、たくさんのヒントから実感できます。

第2章 活動支援 プランニング シートを使った 進め方

[1] 活動支援プランニングシート

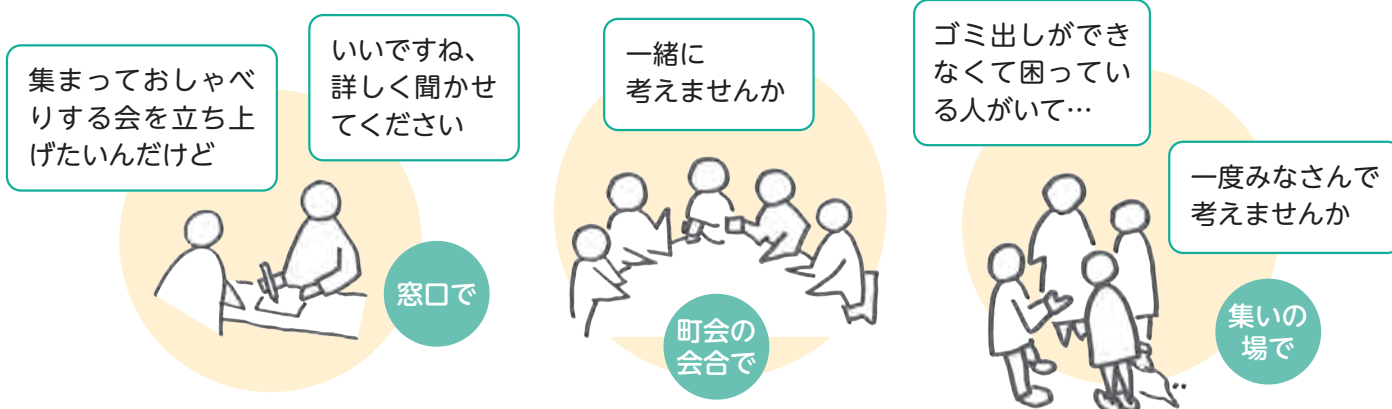
このシートは、生活支援コーディネーターなど住民活動の立ち上げや発展に関わる人がアセスメントとそれに基づく支援計画の立案、評価をアセット重視の視点で行うためのツールです。

(1) シート使用場面のイメージ

- すでに持っている“強みや良さ”の把握と、それを活かす支援計画を立案します。
- アセスメント → 支援計画の立案 → 評価過程が可視化できます。
- 団体情報と支援の記録の一元化ができます。

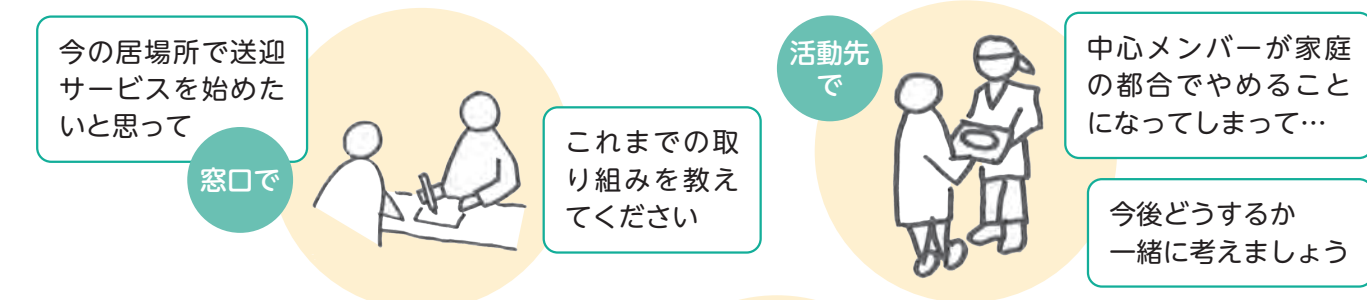
■ 取り組みの立ち上げ

- 住民から、新しく活動を立ち上げたい、という相談を受けたとき。
- 活動がない地域に取り組みを立ち上げたいとき。



■ 取り組みの発展

住民活動団体から、活動のメニューを増やしたり発展させたい、という相談を受けたとき。



■ 支援のスキルアップ

アセット重視の支援手法を学ぶ研修を行うとき。



(2) シートの構成

Part1

基本項目、活動概要など

支援の基本項目（チェック欄）
／住民基本情報／活動の概要／住民の意向、背景（記載欄）

Part2-1

アセット項目チェックリスト

“強みや良さ”／支援の着眼点／事後（3つのチェック欄）

Part2-2

支援計画

メモ／支援計画／使う地域資源（記載欄）

Part3-1

価値項目チェックリスト

事前／事後（2つのチェック欄）

Part3-2

価値の評価

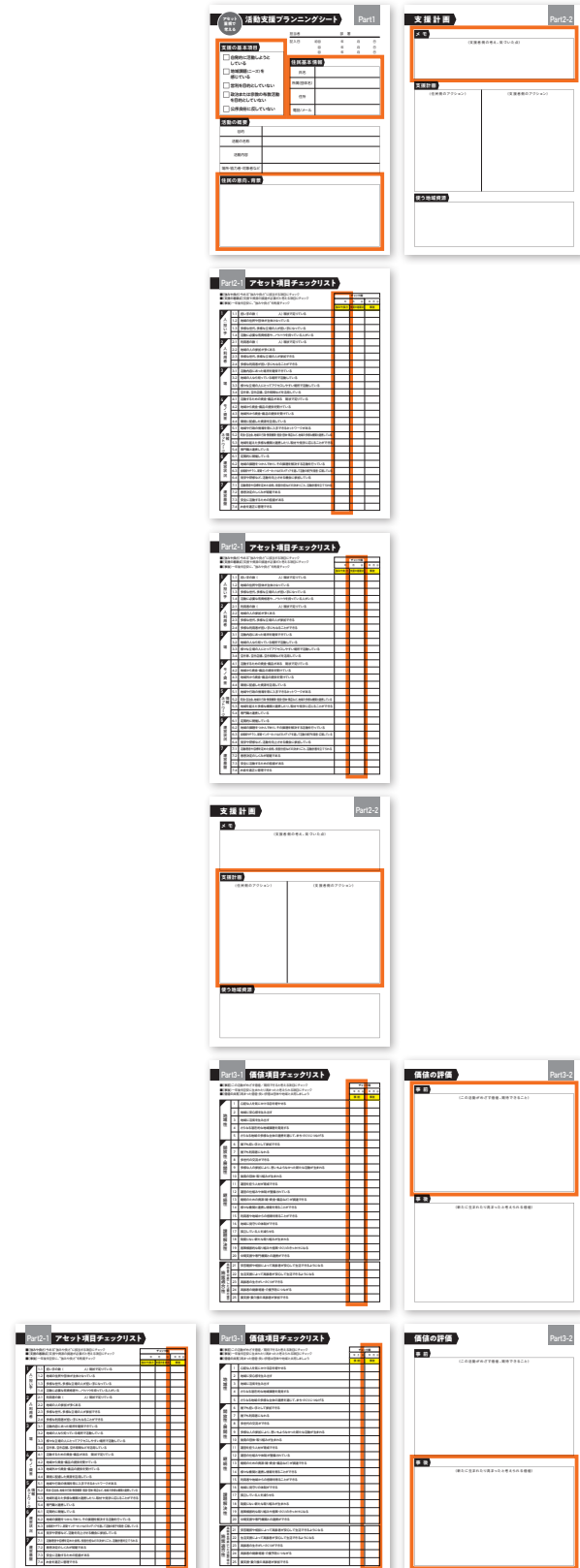
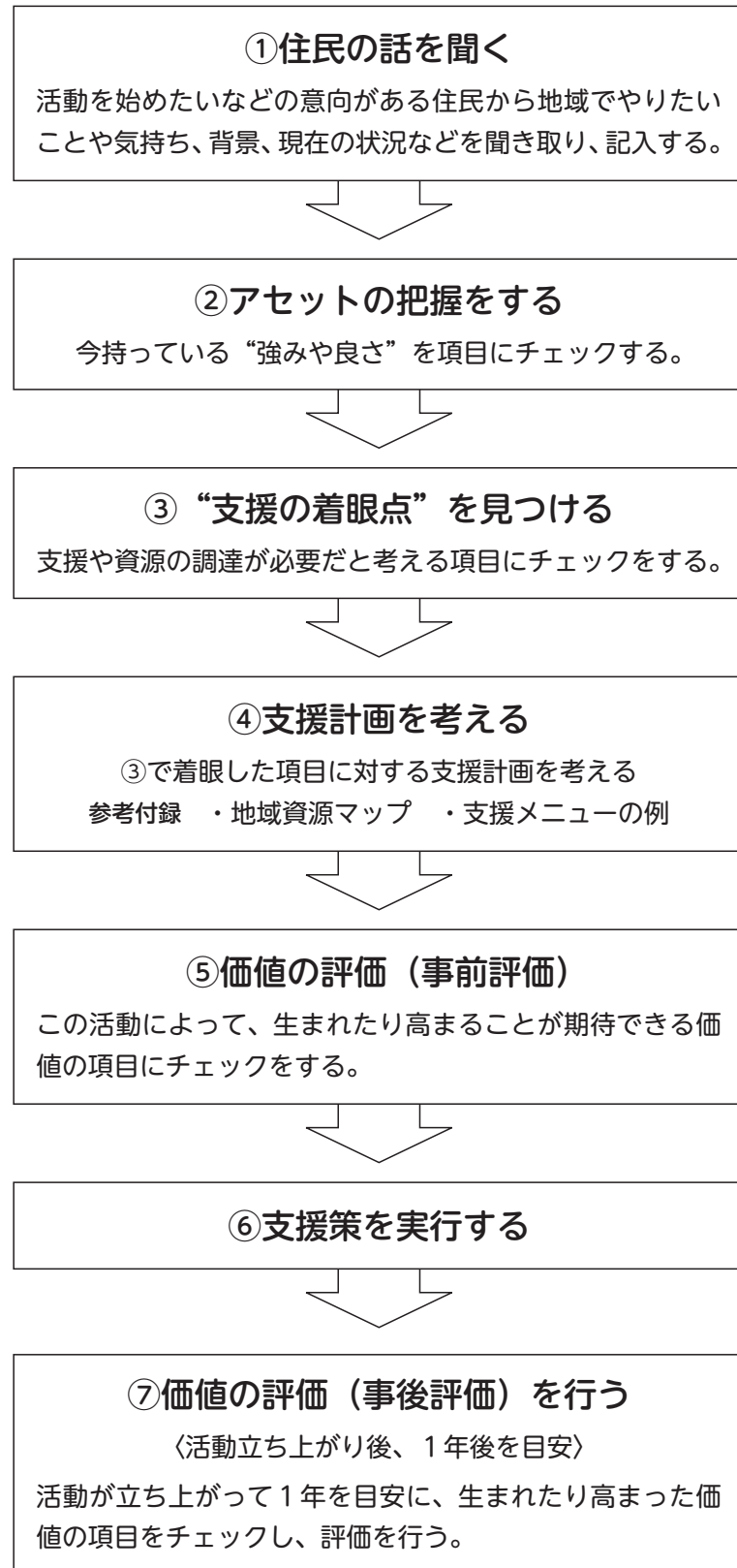
事前／事後（記載欄）

活動支援プランニングシートのダウンロード

一般社団法人全国食支援活動協力会のホームページよりダウンロードできます。

<http://www.mow.jp/>

(3) シートの使い方の流れ



担当者	部 署			
記入日	初回	年	月	日
	回	年	月	日
	回	年	月	日

支援の基本項目

- 自発的に活動しようとしている
- 地域課題(ニーズ)を感じている
- 営利を目的としていない
- 政治または宗教の布教活動を目的としていない
- 公序良俗に反していない

住民基本情報

氏名	
所属(団体名)	
住所	
電話/メール	

活動の概要

目的	
活動の名称	
活動内容	
場所・協力者・対象者など	

住民の意向、背景

- [強みや良さ] 今ある”強みや良さ”に該当する項目にチェック
- [支援の着眼点] 支援や資源の調達が必要だと考える項目にチェック
- [事後] 一年後を目安に、”強みや良さ”を再度チェック

			チェック欄					
			年	月	日	年	月	日
			強みや良さ	支援の着眼点	事後			
1 人 担 い 手	1-1	担い手の数 () 人で足りている						
	1-2	地域の住民や団体が主体となっている						
	1-3	多様な世代、多様な立場の人が担い手になっている						
	1-4	活動に必要な有資格者や、ノウハウを持っている人がいる						
2 人 利 用 者	2-1	利用者の数 () 人で足りている						
	2-2	地域の人の参加が多くある						
	2-3	多様な世代、多様な立場の人が参加できる						
	2-4	多様な利用者が担い手にもなることができる						
3 場	3-1	活動内容にあった場所を確保できている						
	3-2	地域の人なら知っている場所で活動している						
	3-3	様々な立場の人にとってアクセスしやすい場所で活動している						
	3-4	空き家、空き店舗、空き時間などを活用している						
4 モノ・資金	4-1	活動するための資金・備品がある 現状で足りている						
	4-2	地域から資金・備品の提供を受けている						
	4-3	地域外から資金・備品の提供を受けている						
	4-4	環境に配慮した資源を活用している						
5 情報ネットワーク	5-1	地域や行政の情報を常に入手できるネットワークがある						
	5-2	町会・自治会、地域の行政・教育機関・施設・団体・商店など、地域の多様な機関と連携している						
	5-3	地域を越えた多様な機関と連携したり、取材や見学に応じることができる						
	5-4	専門職と連携している						
6 運営状況	6-1	定期的に開催している						
	6-2	地域の課題をつかんでおり、その課題を解決する活動を行っている						
	6-3	会報紙やチラシ、新聞・インターネットなどのメディアを通して活動の様子を発信・広報している						
	6-4	見学や研修など、活動を向上させる機会に参加している						
7 運営基盤	7-1	活動理念や目標を定めた会則、役割分担などの決まりごと、活動計画を立てられる						
	7-2	意思決定のしくみが明確である						
	7-3	安全に活動するための配慮がある						
	7-4	お金を適正に管理できる						

メモ

(支援者側の考え、気づいた点)

支援計画

(住民側のアクション)

(支援者側のアクション)

使う地域資源

- 〔事前〕この活動がめざす価値／期待できると考える項目にチェック
- 〔事後〕一年後を目安に生まれたり高まったと考えられる項目にチェック
- 〔価値の共有〕高まった価値・良い評価は団体や地域と共有しましょう

		チェック欄		
		年 月 日	年 月 日	
		事前	事後	
地域性	1	心配な人を気にかける目を増やせる		
	2	地域に安心感を生み出す		
	3	地域に活気を生み出す		
	4	さらなる潜在的な地域課題を発見する		
	5	さらなる地域の多様な主体の連携を通じて、まちづくりにつなげる		
開放性・展開性	6	誰でも担い手として参加できる		
	7	誰でも利用者になれる		
	8	多世代の交流ができる		
	9	多様な人の参加により、思いもよらなかった新たな活動が生まれる		
	10	後発の団体・取り組みが生まれる		
継続性	11	運営を担う人材が育成できる		
	12	運営の仕組みや体制が整備されている		
	13	継続のための資源(場・資金・備品など)が調達できる		
	14	様々な機関と連携し情報を得ることができる		
	15	利用者や地域からの信頼を得ることができる		
課題解決性	16	地域に見守りの体制ができる		
	17	孤立している人を減らせる		
	18	制度にない新たな取り組みが生まれる		
	19	施策横断的な取り組みや施策づくりのきっかけになる		
	20	中間支援や専門機関との連携ができる		
高齢者を対象にした活動の場合 施策適合性	21	安否確認や相談によって高齢者が安心して生活できるようになる		
	22	生活支援によって高齢者が安心して生活できるようになる		
	23	高齢者の生きがいづくりができる		
	24	高齢者の健康増進・介護予防につながる		
	25	要支援・要介護の高齢者が参加できる		

事前

(この活動がめざす価値、期待できること)

事後

(新たに生まれたり高まったと考えられる価値)

[2] 活動支援プランニングシートの使い方

住民の話を聞く

アセットの把握をする

支援の着眼点を見つける

支援計画を考える

価値の評価
(事前評価)

支援計画を
実行する

一年後

価値の評価
(事後評価)



中本悠子さん

青空町に住む中本さん (72 才)
「なにか地域活動を始めたい (かも)」
と思っています

ー現状ー

ふれあい商店街で喫茶店を経営していた中本悠子さんは、店主であった夫が2年前に亡くなり、また自身が高齢になったこともあり、1年前にお店を閉めました。

商店街仲間からは「せっかく立地がいいところでやっていたのに場所がもったいない」と言われることが多く、以前から「ゆっくりおしゃべりできる、昔ながらの喫茶店がなくなってさみしい」「最近子どもが商店街に来なくなったけれど、子どもにも商店街に来てほしい」という声もありました。

ー中本さんの思いー

「お店を閉めて1年経ったけど、家にいても退屈」
「よく来てくれていた一人暮らしのお客さん、どうしているのかな」
「うちは立地も良かったし、お店でまたなにか始めようかな」
「隣町で空き店舗を使った居場所カフェを見たけれど、ここでもできるのかしら」

中本さんは自分の思いを民生委員・児童委員に話したところ…

中本さんから話を聞いた民生委員・児童委員は、生活支援コーディネーターの加藤さんに中本さんの話をしました。

そうでしたか～
それでは、中本さんにお話を伺ってきますね！



生活支援コーディネーター
加藤さん

加藤さんは【活動支援プランニングシート】を持って、中本さんを訪ねました。

ケーススタディ

住民の話を聞く

01

活動を始めたいなどの意向がある住民から、地域でやりたいことや気持ち、背景、現在の状況などを聞き取り、記入します。



こんにちは！
生活支援コーディネーターの
加藤です

こんにちは～
中本です

民生委員・児童委員さんからお話を伺ったのですが、閉めた喫茶店になにかやりたいって思っているらしいですね

そうですね。
商店街で30年間も経営していたから、
地域の人にも知っている場所ですね

いいですね。
地域の人にもよく知っている
場所なんですね

よく一人暮らしのお客さんも来ていて、居場所にもなっていたんです

すごいですね

主人と始めたんだけど、
2年前に主人が亡くなってね、
一人ではとても続けられなくて閉めたの

なるほど、そこでなにか始めたいと思ったんですね

場所がもったいないし、
わたしもなにかしたい気持ちもあったから…

なるほど、
そうでしたか！

立地もいいところだし、
人が来やすい場所ですね。
いいかもしれませんね

そうなの。実は隣町で
空き店舗を使った居場所カフェを見てね、
あれなら私にもできるんじゃないかって



記入するところ⇒Part1

①【支援の基本項目】

内容を住民の人から聞き出しすべてに✓が入れば住民活動の立ち上げを支援する。

営利目的じゃないかな？

地域課題を把握してるかな？



中本さんの話を聞いたところ、「支援の基本項目」には全部✓が入るよ。支援する基準になるね！

②【住民基本情報】

記入する。

③【住民の意向、背景】

住民の気持ちや意向、活動を始めたいと思った背景を記入する。

熱意や思いは？

なぜ活動したいと思ったんだろう



日付を書いて、今後も住民の気持ちに変化があったら追記していこう！

アセット重視で考える		活動支援プランニングシート		Part1	
1		担当者	加藤	部署	
支援の基本項目		記入日	初回	2020年	2月14日
<input checked="" type="checkbox"/> 自発的に活動しようとしている <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題(ニーズ)を感じている <input checked="" type="checkbox"/> 営利を目的としていない <input checked="" type="checkbox"/> 政治または宗教の布教活動を目的としていない <input checked="" type="checkbox"/> 公序良俗に反していない		2	回	年	月
2		住民基本情報			
		氏名	中本 悠子		
		所属(団体名)	特になし		
		住所	●●区青空町123		
		電話/メール	yuuko-nakamoto@〇〇.jp		
3		新・協力者・対象者など			
3		住民の意向、背景		支援者の意向等は書かない	
		■2月14日 ・ふれあい商店街で喫茶店を30年間やっていたが、ご主人の死去と自身の高齢を理由に2019年1月に閉店。 ・商店街仲間から「昔ながらのマスターとゆっくり話ができる喫茶店がなくなってさみしい」「商店街の入口にあって立ち寄りやすい、場所がもったいない」「子どもにも商店街に遊びに来て欲しい」「商店街に、いろんな人と交流できる場所が欲しい」と言われたことがある。 ・中本さんは、高齢を理由に店を閉じたものの「なにかやってみたい」と考えている。 ・店をやっていたとき、お客で来ていた一人暮らしの高齢者のことも気になっている。 ・隣の空き店舗利用の居場所カフェを見て、これならできるのではと考えている。			

記入するところ⇒Part2-2

④【メモ】

住民の話を聞いて、支援者としての考えや疑問、気になったことなどを記入する。

活動場所の周辺はどうなっているかな

商店街との連携を考えないといけない

支援計画

4

Part2-2

メモ

(支援者側の考え、気づいた点)

- ・本人のやる気もあり、空き店舗は自由に使える
- ・地域包括支援センターへ参加対象者の相談
- ・周知はどうするか
- ・商店街での人間関係、様子、雰囲気はどうか
- ・「子どもにも来てもらいたい」→ 青空小・PTA・子ども会・幼稚園は？

支援計画

(住民側のアクション)



活動を行う場所や周辺環境など、支援者として気になっているところや気づいた点を記入しよう

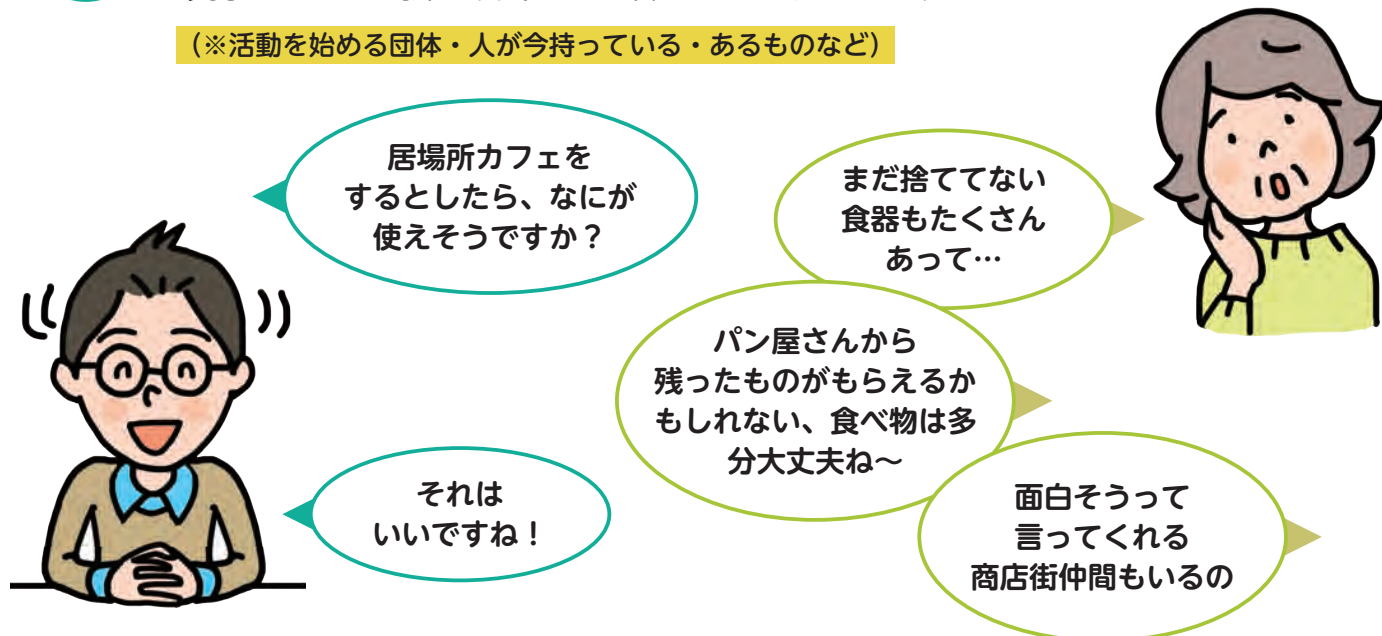
使う地域資源



02 アセットの把握をする

今持っている“強みや良さ”の項目にチェックします。

(※活動を始める団体・人が今持っている・あるものなど)



記入するところ➡Part2-1

⑤【アセット項目チェックリスト】

[強みや良さ]

【1-2】地域の住民や団体が主体となっている
➡中本さんが主体で立ち上がりそう

[強みや良さ]

【5-1】地域や行政の情報を常に入手できるネットワークがある
➡中本さんは商店街で喫茶店を営んでいたため、商店街のネットワーク、民生委員・児童委員とも面識がある

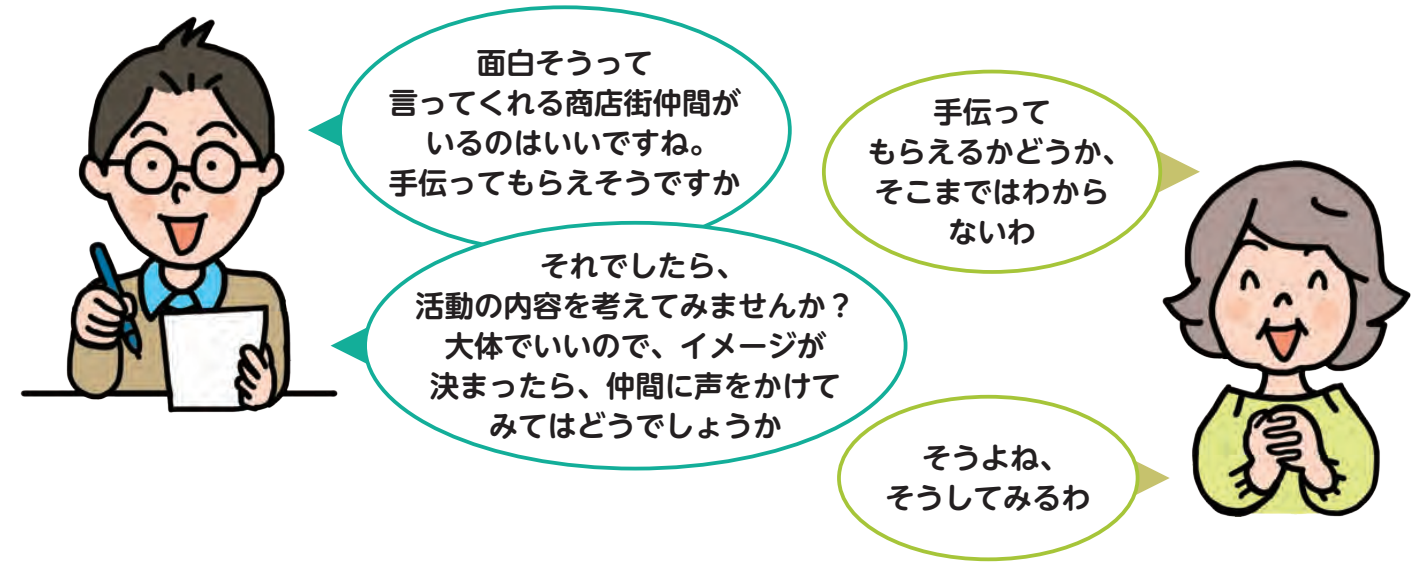
Part2-1 アセット項目チェックリスト ⑤		チェック欄	
		2020年 月 14日	年月日
		強みや良さ	支援の着眼点
1 担い手	1-1 担い手の数(人) 現状で足りている		
	1-2 地域の住民や団体が主体となっている	○	
	1-3 多様な世代、多様な立場の人が担い手になっている		
	1-4 活動に必要な有資格者や、ノウハウを持っている人がいる		
2 利用者	2-1 利用者の数(人) 現状で足りている		
	2-2 地域の人の参加が多くなる		
	2-3 多様な世代、多様な立場の人が参加できる		
	2-4 多様な利用者が担い手にもなることができる		
3 場	3-1 活動内容にあった場所を確保できている	○	
	3-2 地域の人が知っている場所で活動している	○	
	3-3 様々な立場の人にとってアクセスしやすい場所で活動している	○	
	3-4 空き家、空き店舗、空き時間などを活用している	○	
4 モノ・資金	4-1 活動するための資金・備品がある 現状で足りている	○	
	4-2 地域から資金・備品の提供を受けている		
	4-3 地域外から資金・備品の提供を受けている		
	4-4 環境に配慮した資源を活用している		
5 ネットワーク	5-1 地域や行政の情報を常に入手できるネットワークがある	○	
	5-2 町会・自治会、地域の行政・教育機関・施設・団体・商店など、地域の多様な機関と連携している		
	5-3 地域を越えた多様な機関と連携したり、取材や見学に応じることができる		
	5-4 専門職と連携している		
6 運営状況	6-1 定期的に開催している		
	6-2 地域の課題をつかんでおり、その課題を解決する活動を行っている		
	6-3 会報紙やチラシ、新聞・インターネットなどのメディアを通して活動の様子を発信・広めている		
	6-4 見学や研修など、活動を向上させる機会に参加している		
7 運営基盤	7-1 活動理念や目標を定めた会則、役割分担などの決まりごと、活動計画を立てられる		
	7-2 意思決定のしくみが明確である		
	7-3 安全に活動するための配慮がある		
	7-4 お金を適正に管理できる		

すべてのチェック項目に○が付くことが目的ではありません。住民の話をよく聞き「強みや良さ」を把握しよう！

03 “支援の着眼点”を見つける

支援や資源の調達が必要だと考える項目にチェックをします。

(※“支援の着眼点”：現段階で支援が必要だと考えられるもの)



記入するところ➡Part2-1

⑥【アセット項目チェックリスト】

[支援の着眼点]

【1-1】担い手の数(人) 現状で足りている
➡商店街仲間は賛同しているようだが、何人が手伝ってくれるかわからない状態

[支援の着眼点]

【5-1】町会・自治会、地域の行政・教育機関・施設・団体・商店など、地域の多様な機関と連携している
➡孤立しがちな高齢者の居場所になるといいと思っている
➡子どもたちに来てもらいたいと思っているが、教育機関とのつながりはない

支援が必要だと思う項目にチェックをしよう。年月日の入れ忘れに注意！

Part2-1 アセット項目チェックリスト ⑥		チェック欄	
		2020年 2月 14日	年月日
		強みや良さ	支援の着眼点
1 担い手	1-1 担い手の数(人) 現状で足りている		○
	1-2 地域の住民や団体が主体となっている	○	
	1-3 多様な世代、多様な立場の人が担い手になっている		
	1-4 活動に必要な有資格者や、ノウハウを持っている人がいる		
2 利用者	2-1 利用者の数(人) 現状で足りている		
	2-2 地域の人の参加が多くなる		
	2-3 多様な世代、多様な立場の人が参加できる		
	2-4 多様な利用者が担い手にもなることができる		
3 場	3-1 活動内容にあった場所を確保できている	○	
	3-2 地域の人が知っている場所で活動している	○	
	3-3 様々な立場の人にとってアクセスしやすい場所で活動している	○	
	3-4 空き家、空き店舗、空き時間などを活用している	○	
4 モノ・資金	4-1 活動するための資金・備品がある 現状で足りている	○	
	4-2 地域から資金・備品の提供を受けている		
	4-3 地域外から資金・備品の提供を受けている		
	4-4 環境に配慮した資源を活用している		
5 ネットワーク	5-1 地域や行政の情報を常に入手できるネットワークがある	○	
	5-2 町会・自治会、地域の行政・教育機関・施設・団体・商店など、地域の多様な機関と連携している		○
	5-3 地域を越えた多様な機関と連携したり、取材や見学に応じることができる		
	5-4 専門職と連携している		
6 運営状況	6-1 定期的に開催している		
	6-2 地域の課題をつかんでおり、その課題を解決する活動を行っている		
	6-3 会報紙やチラシ、新聞・インターネットなどのメディアを通して活動の様子を発信・広めている		
	6-4 見学や研修など、活動を向上させる機会に参加している		
7 運営基盤	7-1 活動理念や目標を定めた会則、役割分担などの決まりごと、活動計画を立てられる		○
	7-2 意思決定のしくみが明確である		○
	7-3 安全に活動するための配慮がある		
	7-4 お金を適正に管理できる		

04

支援計画を考える

03 で着眼した項目に対する支援計画を考えます



地域資源マップ

ヒアリング調査、ワークショップで得た「自分の地域にある使える地域資源」を参考に、アセット項目のカテゴリ別に作成しました。

<p>専門性のある人</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員・児童委員 医師 看護師 介護士 社会福祉士 ケアマネジャー 精神保健福祉士 <p>地域で活動する人</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会・自治会 老人会・老人クラブ 婦人会 青年団・壮年団 PTA まちづくり推進委員 介護予防サポーター 地域福祉推進委員 ボランティア団体、NPO <p>公共施設など</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館・集会所 児童館 小・中・高校、大学 図書館 スポーツ施設 市民センター 公民館(複合型) 公民館(複合型) 公民館(複合型) 公民館(複合型) 公民館(複合型) 	<p>住んでいる人</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者 障がい者 子育て世代 外国人 外国人 外国人 外国人 外国人 外国人 外国人 <p>地域の人</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者 障がい者 子育て世代 外国人 外国人 外国人 外国人 外国人 外国人 外国人 <p>子どもに関する施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 小・中・高校、大学 児童館 子育て支援センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 	<p>高齢者などに開く施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別養老ホーム 有料老人ホーム グループホーム デイサービス 介護サービス 介護サービス 介護サービス 介護サービス 介護サービス 介護サービス <p>子どもに関する施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 小・中・高校、大学 児童館 子育て支援センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 児童発達センター 	<p>モノ・資金</p> <ul style="list-style-type: none"> 現金 現金 現金 現金 現金 現金 現金 現金 現金 現金 <p>資金調達方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域振興券 ふるさと納税 クラウドファンディング ふるさと納税 ふるさと納税 ふるさと納税 ふるさと納税 ふるさと納税 ふるさと納税 ふるさと納税
--	---	--	--

P70-71 地域資源マップ

支援メニューの例

支援メニューの例として、支援メニューの例として作成しました。

<p>人・住いの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア説明会や住いの相談講座を開催する ボランティア説明会や住いの相談講座を開催する ボランティア説明会や住いの相談講座を開催する ボランティア説明会や住いの相談講座を開催する ボランティア説明会や住いの相談講座を開催する 	<p>人・利用者の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者の情報を把握し、必要に応じて支援を行う 対象者の情報を把握し、必要に応じて支援を行う 対象者の情報を把握し、必要に応じて支援を行う 対象者の情報を把握し、必要に応じて支援を行う 対象者の情報を把握し、必要に応じて支援を行う 	<p>場の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間の貸し会議室やスペースの情報を提供する 民間の貸し会議室やスペースの情報を提供する 民間の貸し会議室やスペースの情報を提供する 民間の貸し会議室やスペースの情報を提供する 民間の貸し会議室やスペースの情報を提供する 	<p>モノ・資金の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村内の利用できそうな助成金・補助金・委託金の情報の提供や、担当窓口の紹介をする 市町村内の利用できそうな助成金・補助金・委託金の情報の提供や、担当窓口の紹介をする 市町村内の利用できそうな助成金・補助金・委託金の情報の提供や、担当窓口の紹介をする 市町村内の利用できそうな助成金・補助金・委託金の情報の提供や、担当窓口の紹介をする 市町村内の利用できそうな助成金・補助金・委託金の情報の提供や、担当窓口の紹介をする 	<p>情報・ネットワーク/運営状況の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動発表の機会をつつたり発表者として推薦する(研修会などの事例紹介など) 活動発表の機会をつつたり発表者として推薦する(研修会などの事例紹介など) 活動発表の機会をつつたり発表者として推薦する(研修会などの事例紹介など) 活動発表の機会をつつたり発表者として推薦する(研修会などの事例紹介など) 活動発表の機会をつつたり発表者として推薦する(研修会などの事例紹介など) 	<p>運営基盤の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な連絡を取り、運営状況を見守る 定期的な連絡を取り、運営状況を見守る 定期的な連絡を取り、運営状況を見守る 定期的な連絡を取り、運営状況を見守る 定期的な連絡を取り、運営状況を見守る
--	---	--	--	--	--

P72-73 支援メニューの例

記入するところ⇒Part2-2

⑦【支援計画】

住民側のアクション

- ・活動計画を立てる
- ・仲間を決めて、役割を決める
- ・喫茶店をできるように環境整備する(掃除など)

支援者側のアクション

- ・定期的な連絡をする(週1回は必ず)
- ・近くの居場所カフェや似ている活動の見学を勧める
- ・地域包括支援センターに連絡し、居場所を利用しそうな人について相談する
- ・活動計画の立て方を必要に応じて支援する
- ・助成金の申請情報を必要に応じて伝える
- ・近隣の教育機関とつなぐ(計画がはっきりしてから)

支援計画		Part2-2
メモ (支援者側の考え、気づいた点)		
<ul style="list-style-type: none"> ・本人のやる気もあり、空き店舗は自由に使える ・地域包括支援センターへ参加対象者の相談 ・周知はどうか ・商店街での人間関係、様子、雰囲気はどうか ・「子どもにも来てもらいたい」→ 青空小・PTA・子ども会・幼稚園は？ 		
支援計画		
(住民側のアクション)	(支援者側のアクション)	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画を立てる ・仲間に声をかけ、役割を決める ・喫茶店をできるように環境整備する(掃除など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な連絡をする(1週間に1回は必ず) ・近くの居場所カフェや似ている活動の見学を勧める(同行する) ・地域包括支援センターに連絡し、利用対象者の相談をする ・活動計画の立て方を必要に応じて支援 ・必要に応じて助成金の申請情報を伝える ・近隣の教育機関とつなぐ(計画などがはっきりしてから) 	
使う地域資源		
空き店舗(ふれあい商店街の喫茶店“プロッサム”) 商店街 商店街の協力してくれる仲間 ○○さん(薬局の店主)・○○さん(パン屋さん) 民生委員・児童委員		

⑧【使う地域資源】 記入する



場所などの物理的なものだけでなく人やネットワークも大切な地域資源です。付録の[地域資源マップ][支援メニューの例][地域資源の活用から見た事例紹介]を参考にしてみよう!

=後日=

中本さんが、活動計画を決めて加藤さんのところに来ます。活動が立ち上がるまでの支援内容や変更点は、このシートに随時、記録・更新していきます。



おお～！すごいですね！
では、一緒に頑張りましょうね！

手伝ってもらいながら
だったけど、活動計画が
できました！



記入するところ⇒Part1

⑨【活動の概要】

活動の[目的][活動の名称][活動内容]
[場所・協力者・対象者]を記入する



この欄は、変更や更新がある度に随時追記・修正して、更新しよう！
(既存の団体が新たに活動を立ち上げる場合などは、新たな活動の情報を記入)

アセット重視で考える		活動支援プランニングシート	Part1
担当者	加藤	部署	
記入日	初回 2020年 2月 14日	回数	年 月 日
支援の基本項目			
<input checked="" type="checkbox"/>	自発的に活動しようとしている		
<input checked="" type="checkbox"/>	地域課題(ニーズ)を感じている		
<input checked="" type="checkbox"/>	営利を目的としていない		
<input checked="" type="checkbox"/>	政治または宗教の布教活動を目的としていない		
<input checked="" type="checkbox"/>	公序良俗に反していない		
住民の基本情報			
氏名	中本 悠子		
所属(団体名)	特になし		
住所	●●区青空町123		
電話/メール	yuuko-nakamoto@○○.jp		
活動の概要			
目的	ふれあい商店街の空き店舗を使って、誰もが立ち寄れる居場所カフェにする		
活動の名称	居場所カフェ		
活動内容	週に2回、地域の高齢者や子供たちがお茶やお菓子を食べながら話したり、勉強や遊ぶことのできる場の提供をする		
場所・協力者・対象者など	場 所：ふれあい商店街喫茶店“プロッサム” 対象者：商店街周辺の人・高齢者・子ども(特に幼稚園生・小学生)		
住民の意向、背景			
■2月14日 ・ふれあい商店街で喫茶店を30年間やっていたが、ご主人の死去と自身の高齢を理由に2019年1月に閉店。 ・商店街仲間から「昔ながらのマスターとゆっくり話ができる喫茶店がなくなってさみしい」「商店街の入口にあって立ち寄りやすい、場所がもったいない」「子どもにも商店街に遊びに来て欲しい」「商店街に、いろんな人と交流できる場所が欲しい」と言われたことがある。 ・中本さんは、高齢を理由に店を閉じたものの「なにかやってみよう」と考えている。 ・店をやっていたとき、お客で来ていた一人暮らしの高齢者のことも気になっている。 ・隣の空き店舗利用の居場所カフェを見て、これならできるとは考えている。			

05 価値の評価 (事前評価)

この活動によって、生まれたり高まることが期待できる評価の項目にチェックをします。



高齢者と子どもの交流ができるかな

中本さんがつくる居場所カフェの1年後を想定して、どんなことができそうかな？

地域にとって安心感や活気が増えるきっかけになるかな、そうなのがいいな

年月日の入れ忘れ注意

記入するところ⇒Part3-1

⑩【価値項目チェックリスト】

「事前評価」の欄に“支援すること”で生まれたり高まることが期待できる項目に○をつける

すべてのチェック項目に○が付くことが目的ではなく、活動を通して生まれる・高まる価値を考えよう！

Part3-1 価値項目チェックリスト		10	
		チェック	年月日
		事前	事後
地域性	1 心配な人を気にかける目を増やせる	<input type="radio"/>	
	2 地域に安心感を生み出す	<input type="radio"/>	
	3 地域に活気を生み出す	<input type="radio"/>	
	4 さらなる潜在的な地域課題を発見する	<input type="radio"/>	
	5 さらなる地域の多様な主体の連携を通じて、まちづくりにつなげる	<input type="radio"/>	
開放性・展開性	6 誰でも担い手として参加できる	<input type="radio"/>	
	7 誰でも利用者になれる	<input type="radio"/>	
	8 多世代の交流ができる	<input type="radio"/>	
	9 多様な人の参加により、思いもよらなかった新たな活動が生まれる	<input type="radio"/>	
	10 後発の団体・取り組みが生まれる	<input type="radio"/>	
継続性	11 運営を担う人材が育成できる	<input type="radio"/>	
	12 運営の仕組みや体制が整備されている	<input type="radio"/>	
	13 継続のための資源(福・資金・備品など)が調達できる	<input type="radio"/>	
	14 様々な機関と連携し情報を得ることができる	<input type="radio"/>	
	15 利用者や地域からの信頼を得ることができる	<input type="radio"/>	
課題解決性	16 地域に見守りの体制ができる	<input type="radio"/>	
	17 孤立している人を減らせる	<input type="radio"/>	
	18 制度にない新たな取り組みが生まれる	<input type="radio"/>	
	19 施策横断的な取り組みや施策づくりのきっかけになる	<input type="radio"/>	
	20 中間支援や専門機関との連携ができる	<input type="radio"/>	
施策適合性	21 安否確認や相談によって高齢者が安心して生活できるようになる	<input type="radio"/>	
	22 生活支援によって高齢者が安心して生活できるようになる	<input type="radio"/>	
	23 高齢者の生きがいづくりができる	<input type="radio"/>	
	24 高齢者の健康増進・介護予防につながる	<input type="radio"/>	
	25 要支援・要介護の高齢者が参加できる	<input type="radio"/>	

記入するところ⇒Part3-2

⑪【事前】

今後は、近隣の大学生や子育て世代の親も来るようになるといいな

11 事前

(この活動がめざす価値、期待できること)

- ・元気高齢者のやりがい、生きがいにつながるような居場所になるといい。
- ・近隣の大学生や子育て世代の親の交流もできるかもしれない。
- ・地域包括支援センターと連携して、「気になっている人」が来られるようにしたい。

メモとして使用する。(期待できることなど)

[価値項目チェックリスト]の内容以外に、考えられる価値や期待できることを書こう！

06 支援計画を実行する

手伝ってくれる仲間が見つかったか、役割分担やお店の片付け、オープンまでの準備…定期的に様子を確かめよう

まず山田さんと一緒にお店の掃除をして、使える食器を確かめよう



隣町に参考になりそうな居場所や子ども食堂があったな。一度、中本さんと一緒に行ってみよう

鈴木さんは、人の話を聞くのが上手だから、手伝ってもらいたいな

近隣の一人暮らし高齢者の状況はどうか、地域包括支援センターに聞いてみよう

チラシ作成が上手な人がいるわ、頼んでみよう



中本さんと一緒に、前に出すぎないように見守りつつ…地域にあるものに目を向けて、つなげていこう！



07 価値の評価(事後評価)を行う



中本さん、カフェが無事に立ち上がって1年が経ちましたね

はい！加藤さんと商店街の仲間が手伝ってくれたおかげです！

中本さんの気持ちが商店街に今までなかった居場所カフェをつくったんですよ！すごいです！

そうかしら、最初はわからないことだらけだったけど、あっという間に1年経ったわ

1年経ってみて、いかがですか？

大変なこともあるけど、楽しみながらやっているわ。最近は近くの小学生が遊びに来るようになったの

おお～！すごいですね！多世代交流ですね～

あとは、なにかしら…？

フリマをやることで資金づくりだけでなく、商店街にも活気が出てきたと思います。商店街に居場所カフェがあるって安心感がありますよね～

そうだと嬉しいわ～♪



記入するところ → Part2-1

⑬【アセット項目チェックリスト】

Part2-1 アセット項目チェックリスト		13		
<ul style="list-style-type: none"> ■(強みや良さ)今ある“強みや良さ”に該当する項目にチェック ■(支援の着眼点)支援や資源の調達が必要だと考える項目にチェック ■(事後)一年後を目安に、“強みや良さ”を再度チェック 		チェック欄		
		2020年 2月 14日	21年2月24日	
		強みや良さ	支援の着眼点	事後
1 人担い手	1-1 担い手の数(人) 現状で足りている		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	1-2 地域の住民や団体が主体となっている	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	1-3 多様な世代、多様な立場の人が担い手になっている			
	1-4 活動に必要な有資格者や、ノウハウを持っている人がいる			
2 人利用者	2-1 利用者の数(人) 現状で足りている			<input type="radio"/>
	2-2 地域の人の参加が多くある			<input type="radio"/>
	2-3 多様な世代、多様な立場の人が参加できる			
	2-4 多様な利用者が担い手にもなることができる			
3 場	3-1 活動内容にあった場所を確保できている	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	3-2 地域の人なら知っている場所で活動している	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	3-3 様々な立場の人にとってアクセスしやすい場所で活動している	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	3-4 空き家、空き店舗、空き時間などを活用している	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
4 モノ・資金	4-1 活動するための資金・備品がある 現状で足りている	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	4-2 地域から資金・備品の提供を受けている			
	4-3 地域外から資金・備品の提供を受けている			
	4-4 環境に配慮した資源を活用している			
5 ネットワーク	5-1 地域や行政の情報を常に入手できるネットワークがある	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	5-2 町会・自治会、地域の行政・教育機関・施設・団体・商店など、地域の多様な機関と連携している		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	5-3 地域を越えた多様な機関と連携したり、取材や見学に応じることができる			
	5-4 専門職と連携している			
6 運営状況	6-1 定期的に開催している			
	6-2 地域の課題をつかんでおり、その課題を解決する活動を行っている			<input type="radio"/>
	6-3 会報紙やチラシ、新聞・インターネットなどのメディアを通して活動の様子を発信・広報している			
	6-4 見学や研修など、活動を向上させる機会に参加している			
7 運営基盤	7-1 活動理念や目標を定めた会則、役割分担などの決まりごと、活動計画を立てられる		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	7-2 意思決定のしくみが明確である		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	7-3 安全に活動するための配慮がある		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	7-4 お金を適正に管理できる			<input type="radio"/>

活動が立ち上がったことで、どんな“強みや良さ”が増えたかな？

チェック欄[事後]に、活動が立ち上がったことで生まれた・高まった“強みや良さ”に○をつける

[事後]
【5-2】町会・自治会、地域の行政・教育機関・施設・団体・商店など、地域の多様な機関と連携している
→地域包括支援センターから紹介された人が来るようになった
→近隣の教育機関(幼稚園、小学校)にも周知され連携体制が整った

[事後]
【2-2】地域の人の参加が多くなる
→居場所カフェが商店街の中に立ち上がったことが話題になり、買物ついでにちょっと寄る地域の人が増えた

記入するところ → Part3-1

⑭【価値項目チェックリスト】

チェック欄[事後]に活動が立ち上がったことで高まった価値や新たに生まれた価値に○をする

Part3-1 価値項目チェックリスト		14		
<ul style="list-style-type: none"> ■(事前)この活動がめざす価値/期待できると考える項目にチェック ■(事後)一年後を目安に生まれたり高まったと考えられる項目にチェック ■(価値の共有)高まった価値・良い評価は団体や地域と共有しましょう 		チェック欄		
		2020年2月14日	21年2月24日	
		事前	事後	
地域性	1 心配な人を気にかける目を増やせる	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	2 地域に安心感を生み出す	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	3 地域に活気を生み出す	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	4 さらなる潜在的な地域課題を発見する			
	5 さらなる地域の多様な主体の連携を通じて、まちづくりにつなげる			
開放性・展開性	6 誰でも担い手として参加できる			
	7 誰でも利用者になれる			<input type="radio"/>
	8 多世代の交流ができる	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	9 多様な人の参加により、思いもよらなかった新たな活動が生まれる			
継続性	10 後発の団体・取り組みが生まれる			
	11 運営を担う人材が育成できる			
	12 運営の仕組みや体制が整備されている			
	13 継続のための資源(場・資金・備品など)が調達できる			<input type="radio"/>
	14 様々な機関と連携し情報を得ることができる			<input type="radio"/>
課題解決性	15 利用者や地域からの信頼を得ることができる	<input type="radio"/>		
	16 地域に見守りの体制ができる			<input type="radio"/>
	17 孤立している人を減らせる	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	18 制度にない新たな取り組みが生まれる	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	19 施策横断的な取り組みや施策づくりのきっかけになる			
	20 中間支援や専門機関との連携ができる			
	高齢者を対象に 施策	21 安否確認や相談によって高齢者が安心して生活できるようになる		
22 生活支援によって高齢者が安心して生活できるようになる				
23 高齢者の生きがいづくりができる		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>

活動が立ち上がったことで、生まれた価値、高まった価値はなにかな？

[事後]
【継続性 13】継続のための資源(場・資金・備品等)が調達できる
→定期的に不要品のフリーマーケットを開催することで、資金を生み出すことができている
→商店街のにぎわいづくりにもなっている

[事後]
【地域性 1】心配な人を気にかける目を増やせる
→商店街の中のカフェのため、買物ついでに立ち寄りやすい。一人で来た人や孤立しがちな人にとっても、居心地の良い場になっている

記入するところ⇒Part3-2

⑮ 【事後】

メモとして使用する (良い点・今後についてなど)。



【価値項目
チェックリスト】の内容以外に生まれたり高まった価値があったら記入しよう！

価値の評価

Part3-2

事前

(この活動がめざす価値、期待できること)

- ・元気高齢者のやりがい、生きがいにつながるような居場所になるといい。
- ・近隣の大学生や子育て世代の親の交流もできるかもしれない。
- ・地域包括支援センターと連携して、「気になっている人」が来られるようにしたい。

事後

(新たに生まれたり高まったと考えられる価値)

- ・当初は小学生の自主学習スペースになることを想定していたが、近隣大学の教育サークルの学生が子どもたちの先生役として週に1回学習支援をしている。

【事後】

当初は小学生の自主学習スペースになることを想定していたが、近隣大学の教育サークルの学生が子どもたちの先生役として週に1回学習支援をしている
地域包括支援センターが月に一度「なんでも相談」をしてくれるようになり、参加する高齢者の安心感が増した



[3] 活動支援プランニングシートを使った事例紹介

実際に立ち上がった活動を振り返りながら記入した、シートの記載例をご紹介します。

Sさんは、荒川区社会福祉協議会に勤務するコーディネーターです。
2019年2月、「都電カフェ」という店のオープンを予定している男性Fさんの相談を受けました。



01 住民の話を聞く

Fさんの思いをじっくり聞きました。
「高齢になってきた自分のためにも認知症予防になる健康体操をしたい」
「会場として、お客さんがあまり来ない午前中、毎日でもカフェを貸し出したい」
「自分では活動ができないので、誰か活動してくれる人はいないかな」との相談でした。
話をすることで、高齢者が多い地域で、孤立などの課題を感じていることもわかりました。
都電カフェは、東京都荒川区を走る路面電車（都電荒川線）の三ノ輪駅から徒歩1分にあるジョイフル三ノ輪商店街の入口に立地。店内は広さもあり、バリアフリーであることもわかりました。

記入するところ⇒Part1

- ① 【支援の基本項目】
すべてに✓が入ったので、支援を開始しました。
- ② 【住民基本情報】
記入しました。
- ③ 【住民の意向、背景】
聞いた内容を記載しました。

アセット重視で考える
活動支援プランニングシート
Part1

1 担当者 S 部署

2 記入日 2019年2月1日

支援の基本項目

自発的に活動しようとしている

地域課題(ニーズ)を感じている

営利を目的としない

政治または宗教の布教活動を目的としない

公序良俗に反していない

住民基本情報

氏名 Fさん

所属(団体名) 都電カフェオーナー

住所 荒川区三ノ輪

電話/メール 03-0000-0000

活動の概要

目的	
活動の名称	
活動内容	
場所・協力者・対象者など	

3 住民の意向、背景

■2月1日

- 自分の認知症予防のために健康体操をしたいが、自分が主体の活動は難しい。
- これから「都電カフェ」という名称のカフェを開店する。このカフェを提供するので、やってくれる人はいないかという相談。
- カフェは、都電荒川線三ノ輪駅すぐ、ジョイフル三ノ輪商店街の入口に立地。

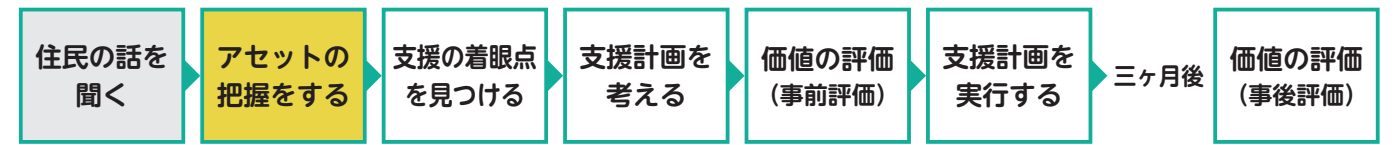
4 メモ

(支援者側の考え、気づいた点)

- 一人暮らしなどの高齢者世帯が多い地域。
- 商店会長は、民生委員・児童委員でもあり地域活動への理解がある。商店街や町会から支援を受けられる可能性が大。

記入するところ⇒Part2-2

- ④ 【メモ】
コーディネーターとして気づいたことを記載しました。



02 アセットの把握をする

アセットリストを見ながら「強みや良さ」にチェックをつけました。

記入するところ⇒Part2-1

⑤ 【アセット項目チェックリスト】

- [強みや良さ]
- [3-1] 活動内容にあった場所を確保できている
- [3-3] 様々な立場の人にとってアクセスしやすい場所で活動している
- ⇒駅近くにあるカフェで、広さもありバリアフリーという、人が集まりやすい条件が揃っている
- [3-4] 空き時間などを活用
- ⇒来客が少ない午前中を貸し出すので、活動してくれる人はいないかという希望
- [6-2] 地域の課題をつかんでいる
- ⇒動機は、自分の認知症予防だが、高齢者が多い地域であり、自分と同じ課題を抱えている人がいることを感じている

Part2-1 アセット項目チェックリスト		チェック欄	
		2019年	年月日
		強みや良さ	事後
1	1-1 担い手の数(人) 現状で足りている		
1	1-2 地域の住民や団体が主体となっている		
1	1-3 多様な世代、多様な立場の人が担い手になっている		
1	1-4 活動に必要な有資格者や、ノウハウを持っている人がいる		
2	2-1 利用者の数(人) 現状で足りている		
2	2-2 地域の人の参加が多くある		
2	2-3 多様な世代、多様な立場の人が参加できる		
2	2-4 多様な利用者が担い手になれることができる		
3	3-1 活動内容にあった場所を確保できている	○	
3	3-2 地域の人なら知っている場所で活動している		
3	3-3 様々な立場の人にとってアクセスしやすい場所で活動している	○	
3	3-4 空き家、空き店舗、空き時間などを活用している	○	
4	4-1 活動するための資金・備品がある 現状で足りている		
4	4-2 地域から資金・備品の提供を受けている		
4	4-3 地域外から資金・備品の提供を受けている		
4	4-4 環境に配慮した資源を活用している		
5	5-1 地域や行政の情報を入手できるネットワークがある		
5	5-2 町会・自治会、地域の行政・教育機関・施設・団体・商店など、地域の多様な機関と連携している		
5	5-3 地域を越えた多様な機関と連携したり、取材や見学に応じることができる		
5	5-4 専門職と連携している		
6	6-1 定期的に開催している		
6	6-2 地域の課題をつかんでおり、その課題を解決する活動を行っている	○	
6	6-3 会報紙やチラシ、新聞・インターネットなどのメディアを通して活動の様子を発信・広報している		
6	6-4 見学や研修など、活動を向上させる機会に参加している		
7	7-1 活動理念や目標を定めた会則、役割分担などの決まりごと、活動計画を立てられる		
7	7-2 意思決定のしくみが明確である		
7	7-3 安全に活動するための配慮がある		
7	7-4 お金を適正に管理できる		

「場所が確保されていること」
「地域の課題を感じていること」が
強みであることを確認したよ！



03 “支援の着眼点”を見つける

アセットリストを見ながら“支援の着眼点”にチェックをつけました。

記入するところ⇒Part2-1

⑥【アセット項目チェックリスト】

- 【1-1】 担い手確保の支援が必要
⇒活動の担い手探しが一番の支援
- 【2-1】 利用者確保の支援が必要
⇒利用者確保の支援も必要
- 【5-4】 専門家と連携する支援が必要
⇒認知症予防や一人暮らしの高齢者対策を目的とするため、それらに対応できる専門家との連携が必要
- 【6-1】 定期的に開催する支援が必要
⇒定期的な開催ができる担い手を探す必要がある
- 【7-3】 安全に活動するための配慮がある
⇒活動中の保険について情報を提供

Part2-1 アセット項目チェックリスト		6		
		チェック欄		
		2019年	2月1日	年月日
		強みや良さ	支援の着眼点	事後
1 人 担 い 手	1-1 担い手の数()人 現状で足りている		<input type="checkbox"/>	
	1-2 地域の住民や団体が主体となっている		<input type="checkbox"/>	
	1-3 多様な世代、多様な立場の人が担い手になっている		<input type="checkbox"/>	
	1-4 活動に必要な資格者や、ノウハウを持っている人がいる		<input type="checkbox"/>	
2 人 利 用 者	2-1 利用者の数()人 現状で足りている		<input type="checkbox"/>	
	2-2 地域の人の参加が多くある		<input type="checkbox"/>	
	2-3 多様な世代、多様な立場の人が参加できる		<input type="checkbox"/>	
	2-4 多様な利用者が担い手にもなることができる		<input type="checkbox"/>	
3 場	3-1 活動内容にあった場所を確保できている		<input type="checkbox"/>	
	3-2 地域の人なら知っている場所で活動している		<input type="checkbox"/>	
	3-3 様々な立場の人にとってアクセスしやすい場所で活動している		<input type="checkbox"/>	
	3-4 空き家、空き店舗、空き時間などを活用している		<input type="checkbox"/>	
4 モノ・ 資 金	4-1 活動するための資金・備品がある 現状で足りている		<input type="checkbox"/>	
	4-2 地域から資金・備品の提供を受けている		<input type="checkbox"/>	
	4-3 地域外から資金・備品の提供を受けている		<input type="checkbox"/>	
	4-4 環境に配慮した資源を活用している		<input type="checkbox"/>	
5 情 報 ネ ッ ト ワ ー ク	5-1 地域や行政の情報を常に入手できるネットワークがある		<input type="checkbox"/>	
	5-2 町会・自治会、地域の行政・教育機関・施設・団体・商店など、地域の多様な機関と連携している		<input type="checkbox"/>	
	5-3 地域を越えた多様な機関と連携したり、取材や見学に応じることができる		<input type="checkbox"/>	
	5-4 専門職と連携している		<input type="checkbox"/>	
6 運 営 状 況	6-1 定期的に開催している		<input type="checkbox"/>	
	6-2 地域の課題をつかんでおり、その課題を解決する活動を行っている		<input type="checkbox"/>	
	6-3 会報紙やチラシ、新聞・インターネットなどのメディアを通して活動の様子を発信・広報している		<input type="checkbox"/>	
	6-4 見学や研修など、活動を向上させる機会に参加している		<input type="checkbox"/>	
7 運 営 基 盤	7-1 活動理念や目標を定めた会則、役割分担などの決まりごと、活動計画を立てられる		<input type="checkbox"/>	
	7-2 意思決定のしくみが明確である		<input type="checkbox"/>	
	7-3 安全に活動するための配慮がある		<input type="checkbox"/>	
	7-4 お金を適正に管理できる		<input type="checkbox"/>	



「この場所を使って、高齢者を対象にした活動を定期的に行える団体を探すこと」「適した専門職と連携すること」が、支援の着眼点であることを確認したよ！



04 支援計画を考える

コーディネーターのSさんは、早速、開店の準備が進む都電カフェを見に行き、その後、支援計画を考えました。

記入するところ⇒Part2-2

⑦【支援計画】

住民側のアクション
・会場を貸し出す際の条件などを整理してもらう

支援者側のアクション
・活動団体のマッチングを行う。
様々なネットワークを使い声かけをする

⑧【使う地域資源】

社会福祉協議会がもっているネットワークを活用する。

支援計画

Part2-2

メモ (支援者側の考え、気づいた点)

- 一人暮らしなど的高齢者世帯が多い地域。
- 商店会長は、民生委員・児童委員でもあり地域活動への理解がある。商店街や町会から支援を受けられる可能性が大。

(住民側のアクション)	(支援者側のアクション)
<p>●会場貸出の条件整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使える曜日、時間帯 ・使える備品 ・トイレの使い勝手の検討 (2Fにあるとのこと) 	<p>●会場の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広さ、バリアフリー、使える備品、使い勝手の確認
<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になることの検討 	<p>●団体のマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動してくれそうな団体を探す ・様々なネットワークを活用 例) 体操教室をする団体 観光ボランティアの団体 鉄道好きな団体 ペーゴマなどの昔遊びの団体 など

⑧ 使う地域資源

カフェの空き時間
民生委員・児童委員、商店街、町会・自治会
公的機関 (高齢者福祉課、地域包括支援センター、高齢者見守りステーション)
ボランティア (高齢者介護予防サロン運営)
荒川子ども応援ネットワークの関係者



=後日=

「この場所を使って、一人暮らしなどの高齢者を対象にした食事会ができれば」という団体が見つかりました。

荒川区の汐入地区で、一人暮らしなどの男性高齢者を対象に食事提供をしている「汐入地域食堂」を運営している団体が手をあげました。

汐入地域食堂は、地域医療や認知症カフェなどに長年取り組んできた東京ほくと医療生活協同組合汐入診療所の看護師長が、一人暮らしのなどの高齢者、特に男性の食に偏りがあることに気づき立ち上げた活動です。主に高齢者を対象に、「子ども食堂」のような食事提供をしています。同じような活動を三ノ輪地区でもできないかと、カフェの見学やFさんと打合せを重ね、活動のイメージをつくりました。

記入するところ⇒Part1

⑨【活動の概要】

月1回、一人暮らしなどの高齢者（特に男性）を対象に、地域食堂を開催することになった

アセット重視で考える

活動支援プランニングシート

Part1

担当者 S 部署

記入日 初回 2019年 2月 1日

回 年 月 日

回 年 月 日

支援の基本項目

- 自発的に活動しようとしている
- 地域課題(ニーズ)を感じている
- 営利を目的としていない
- 政治または宗教の布教活動を目的としていない
- 公序良俗に反していない

住民基本情報

氏名	Fさん
所属(団体名)	都電カフェオーナー
住所	荒川区三ノ輪
電話/メール	03-0000-0000

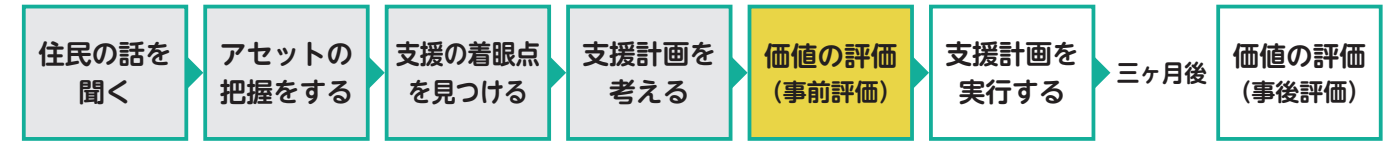
活動の概要

目的	一人暮らしなどの高齢者（特に男性）対象の会食会で、孤立化を防ぐ
活動の名称	三ノ輪地域食堂
活動内容	毎月一度、地域食堂開催 食時の提供、おしゃべり、健康体操、情報提供、相談など
場所・協力者・対象者など	会場：商店街（ジョイフル三ノ輪）の入口にあるカフェ（都電カフェ） 対象者：一人暮らしなどの高齢者（特に男性）、協力者：診療所の組合員など

住民の意向、背景

■2月1日

- ・自分の認知症予防のために健康体操をしたいが、自分が主体の活動は難しい。
- ・これから「都電カフェ」という名称のカフェを開店する。このカフェを提供するので、やってくれる人はいないかという相談。
- ・カフェは、都電荒川線三ノ輪駅すぐ、ジョイフル三ノ輪商店街の入口に立地。



05 価値の評価（事前評価）

コーディネーターのSさんが、この活動がめざす方向や期待できることにチェックをつけました。

記入するところ⇒Part3-1

⑩【価値項目チェックリスト】

地域に活気を生み出す
⇒高齢者の集いの場ができることで、定期的に通う人が増え、商店街活性化に寄与することが期待できる

誰でも利用者になれる
⇒商店街を往来する人に声かけすることで、買物ついでの人、これまでサロンに來なかつた新たな層の参加者が期待できる

様々な機関と連携し情報を得ることができる
⇒診療所が関わることで、認知症予防などに関する専門的な知識を得ながら取り組むことができる

孤立している人を減らせる
⇒一人暮らしなどの高齢者が多いこの地域に活動が生まれると、孤立している人と地域がつながることが期待できる

Part3-1 価値項目チェックリスト		チェック欄	
		事前	事後
地域性	1 心配な人を気にかける目を増やせる		
	2 地域に安心感を生み出す		
	3 地域に活気を生み出す	○	
	4 さらなる潜在的な地域課題を発見する		
開放性・展開性	5 さらなる地域の多様な主体の連携を通じて、まちづくりにつなげる		
	6 誰でも担い手として参加できる		
	7 誰でも利用者になれる	○	
	8 多世代の交流ができる		
	9 多様な人の参加により、思いもよらなかつた新たな活動が生まれる		
	10 後発の団体・取り組みが生まれる		
	11 運営を担う人材が育成できる		
継続性	12 運営の仕組みや体制が整備されている		
	13 継続のための資源(場・資金・備品など)が調達できる		
	14 様々な機関と連携し情報を得ることができる	○	
	15 利用者や地域からの信頼を得ることができる		
課題解決性	16 地域に見守りの体制ができる		
	17 孤立している人を減らせる	○	
	18 制度にない新たな取り組みが生まれる		
	19 施策横断的な取り組みや施策づくりのきっかけになる		
	20 中間支援や専門機関との連携ができる		
施策適合性	21 安否確認や相談によって高齢者が安心して生活できるようになる		
	22 生活支援によって高齢者が安心して生活できるようになる		
	23 高齢者の生きがいづくりができる		
	24 高齢者の健康増進・介護予防につながる		
	25 要支援・要介護の高齢者が参加できる	○	

高齢者の健康増進・介護予防につながる
⇒高齢者の食の栄養の偏りが気になることから始まった団体が取り組むので、高齢者に合った食事提供が期待できる



記入するところ➡Part3-2

⑪【事前】

「価値項目チェックリスト」の内容以外では…

Part3-2

価値の評価

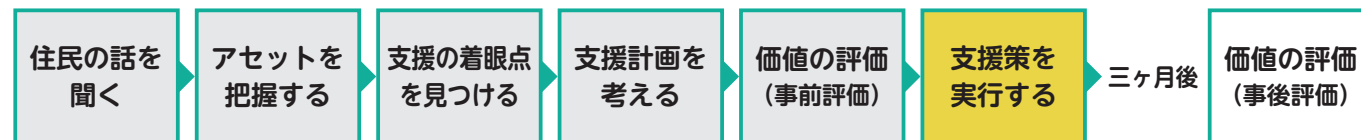
事前

(この活動がめざす価値、期待できること)

- 担い手や参加者の声かけに、地域の人（民生委員・児童委員、町会・自治会、商店街など）が関わるようになれば、地域とのつながりが深まり顔見知りが増える。

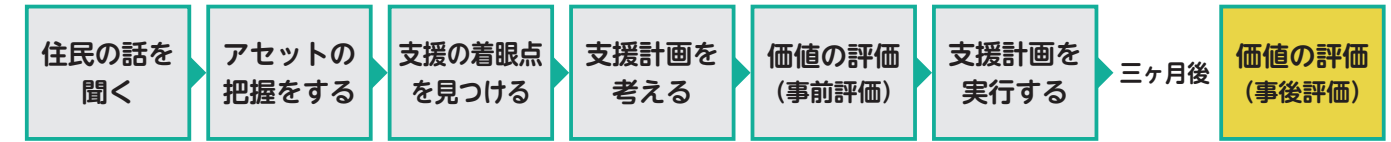
事後

(新たに生まれたり高まったと考えられる価値)



06 支援計画を実行する

2019年11月にプレで実施、12月から正式にスタートしました。



07 価値の評価（事後評価）を行う

活動スタートから三ヶ月経った時点で、これまでの活動を振り返りました。【アセット項目チェックリスト】[事後]に、支援したことで生まれたり高まった“強みや良さ”に○をしました。

記入するところ➡Part2-1

⑩【価値項目チェックリスト】

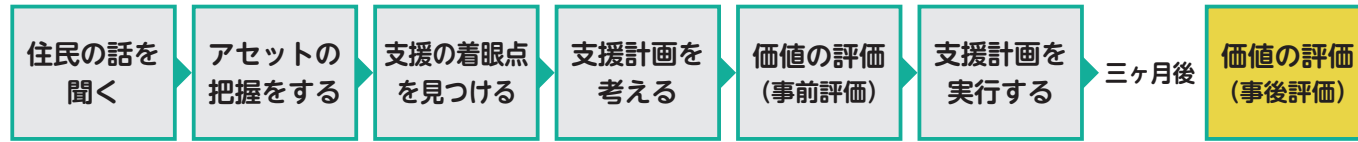
【1-1】担い手の数約15人 現状で足りている
➡汐入地域食堂のスタッフおよび地域のボランティアが参加し、担い手は足りている

【1-3】多様な立場の人が担い手になっている
➡地域包括支援センターから呼びかけた軽度認知症のある人が、ボランティアとして参加している

【2-1】利用者の数約25人 現状で足りている
➡事前に対象者へのPRを行ったほか、当日は商店街を歩き交う人々に声をかけ、買物ついでに気軽に寄る人もいる

【5-3】取材に応じることができる
➡カフェスペースを活用し、一人暮らしのなどの男性高齢者を対象にした居場所として、新聞に取り上げられた

Part2-1 アセット項目チェックリスト		チェック欄	
		2019年 2月1日	20#3月1日
		強みや良さ	支援の着眼点
1 人担い手	1-1 担い手の数(人) 現状で足りている	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
	1-2 地域の住民や団体が主体となっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	1-3 多様な世代、多様な立場の人が担い手になっている	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 人利用者	2-1 利用者の数(人) 現状で足りている	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
	2-2 地域の人参加が多くある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	2-3 多様な世代、多様な立場の人が参加できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	2-4 多様な利用者が担い手にもなることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 場	3-1 活動内容にあった場所を確保できている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	3-2 地域の人なら知っている場所で活動している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	3-3 様々な立場の人にとってアクセスしやすい場所で活動している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 モノ・資金	4-1 活動するための資金・備品がある 現状で足りている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	4-2 地域から資金・備品の提供を受けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	4-3 地域外から資金・備品の提供を受けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	4-4 環境に配慮した資源を活用している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 ネットワーク	5-1 地域や行政の情報を常に入手できるネットワークがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	5-2 町会・自治会、地域の行政・教育機関・施設・団体・商店など、地域の多様な機関と連携している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	5-3 地域を超えた多様な機関と連携したり、取材や見学に応じることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	5-4 専門職と連携している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 運営状況	6-1 定期的に開催している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	6-2 地域の課題をつかんでおり、その課題を解決する活動を行っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	6-3 会報紙やチラシ、新聞・インターネットなどのメディアを通して活動の様子を発信・広報している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	6-4 見学や研修など、活動を向上させる機会に参加している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 運営基盤	7-1 活動理念や目標を定めた会則、役割分担などの決まりごと、活動計画を立てらる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	7-2 意思決定のしくみが明確である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	7-3 安全に活動するための配慮がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	7-4 お金を適正に管理できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>



記入するところ➡ Part3-1

⑭ 【価値項目チェックリスト】

【価値項目チェックリスト】[事後]に、活動が立ち上がったことで生まれたり高まった価値に○をしました

[事後]
当初想定した価値は、すべて確認できた

[事後]
【地域性 1】心配な人を気にかける目を増やせる
➡地域での顔見知りが増え、お互いに気をつけるつながりが広がっている

[事後]
【開放性・展開性 6】誰でも担い手として参加できる
➡地域包括支援センターから呼びかけた軽度認知症のある人が、ボランティアとして参加している

[事後]
【課題解決性 16】中間支援や専門機関との連携ができる
【施策適合性 21】安否確認や相談によって高齢者が安心して生活できるようになる
➡行政や社協、地域包括支援センター、医療機関と連携し、高齢者が地域で安心して暮らせるネットワークがつくられている

Part3-1 価値項目チェックリスト		14	
		チェック期	
		2019年2月1日	20年3月1日
		事前	事後
地域性	1 心配な人を気にかける目を増やせる		○
	2 地域に安心感を生み出す		
	3 地域に活気を生み出す	○	○
	4 さらなる潜在的な地域課題を発見する		
	5 さらなる地域の多様な主体の連携を通じて、まちづくりにつなげる		
開放性・展開性	6 誰でも担い手として参加できる		○
	7 誰でも利用者になれる	○	○
	8 多世代の交流ができる		
	9 多様な人の参加により、思いもよらなかった新たな活動が生まれる		
	10 後発の団体・取り組みが生まれる		
継続性	11 運営を担う人材が育成できる		
	12 運営の仕組みや体制が整備されている		
	13 継続のための資源(場・資金・備品など)が調達できる		
	14 様々な機関と連携し情報を得ることができる	○	○
	15 利用者や地域からの信頼を得ることができる		
課題解決性	16 地域に見守りの体制ができる		○
	17 孤立している人を減らせる		
	18 制度にない新たな取り組みが生まれる	○	○
	19 施策横断的な取り組みや施策づくりのきっかけになる		
	20 中間支援や専門機関との連携ができる		
施策適合性	21 安否確認や相談によって高齢者が安心して生活できるようになる		○
	22 生活支援によって高齢者が安心して生活できるようになる		
	23 高齢者の生きがいづくりができる		
	24 高齢者の健康増進・介護予防につながる	○	○
	25 要支援・要介護の高齢者が参加できる		

記入するところ➡ Part3-2

⑮ 【事後】

活動が立ち上がったことで、生まれたり高まった価値を記入しました。

Part3-2

価値の評価

事前

(この活動がめざす価値、期待できること)

- ・担い手や参加者の声かけに、地域の人（民生委員・児童委員、町会・自治会、商店街など）が関わるようになれば、地域とのつながりが深まり顔見知りが増える。

事後

(新たに生まれたり高まったと考えられる価値)

- ・新聞に取り上げられたことで、活動内容が広く地域にPRでき、新たな参加者獲得につながっている
- ・また、担い手のやりがいにもつながった。
- ・開催日には、地域包括支援センターと高齢者見守りステーションが交互に参加しており、高齢者の相談に対応している。
- ・専門職と連携することで、安心感のある居場所づくりになっている。

価値の共有

コーディネーターのSさんは、「三ノ輪地域食堂」の価値を人に伝え共有しています。

地域へ・メディアへ

一人暮らしなどの高齢者が多い地域で、特に食のバランスが偏りがちな男性に来て欲しいと考え開催している居場所です。カフェの空き時間を活用しているところも特徴的です。

Fさんに

地域の大勢の人に関わってもらうことで、顔見知りの関係が広がりましたね。すごいですね。

行政へ

高齢者向けのメニュー提供や、商店街入口という立地の良さが、高齢者の参加につながっています。ボランティアは元気高齢者で、介護予防の効果もあります。高齢者施策に貢献している活動です。

三ノ輪地域食堂の活動の様子



都電カフェの入口

東京新聞に掲載
(2019.12.13)

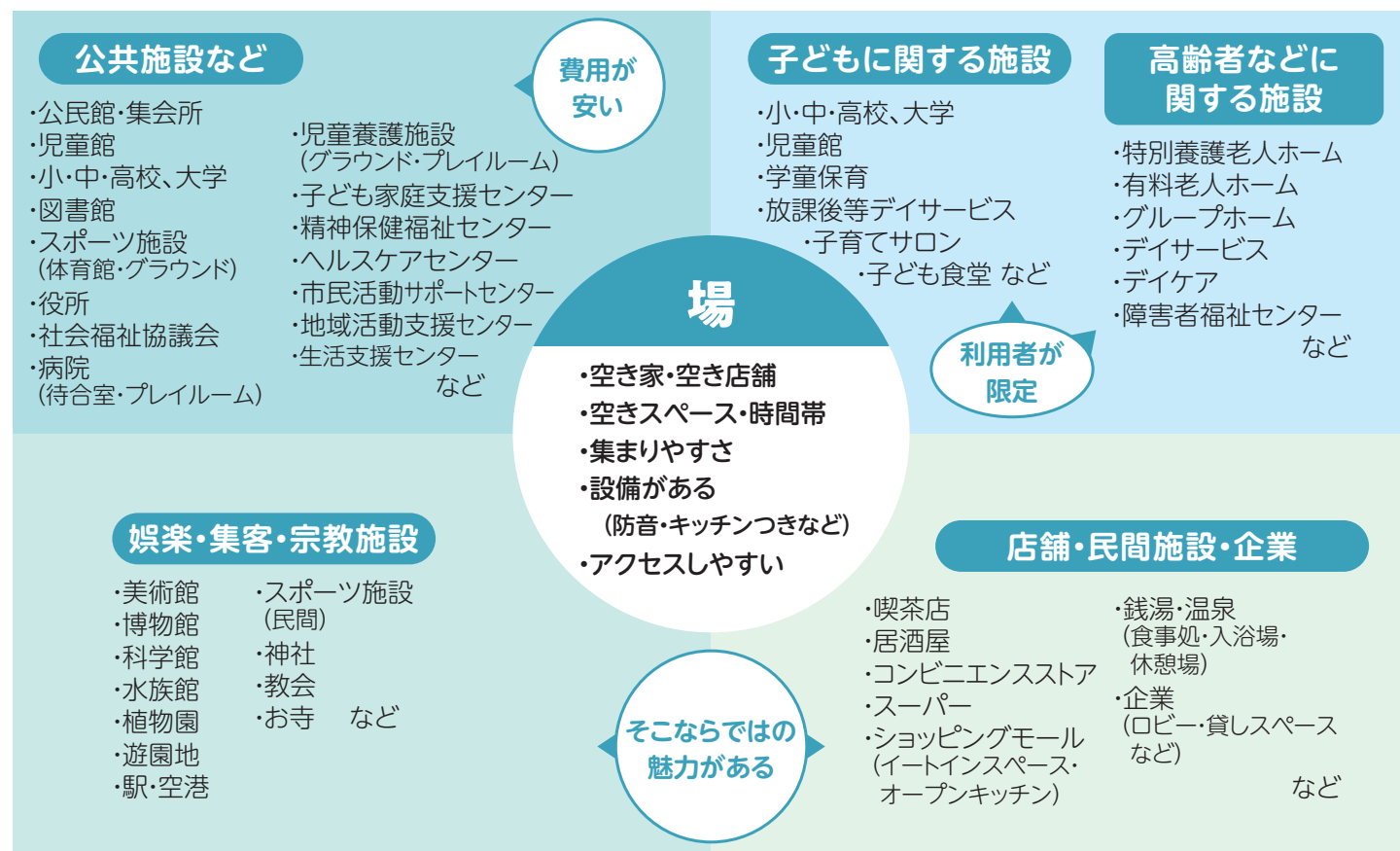
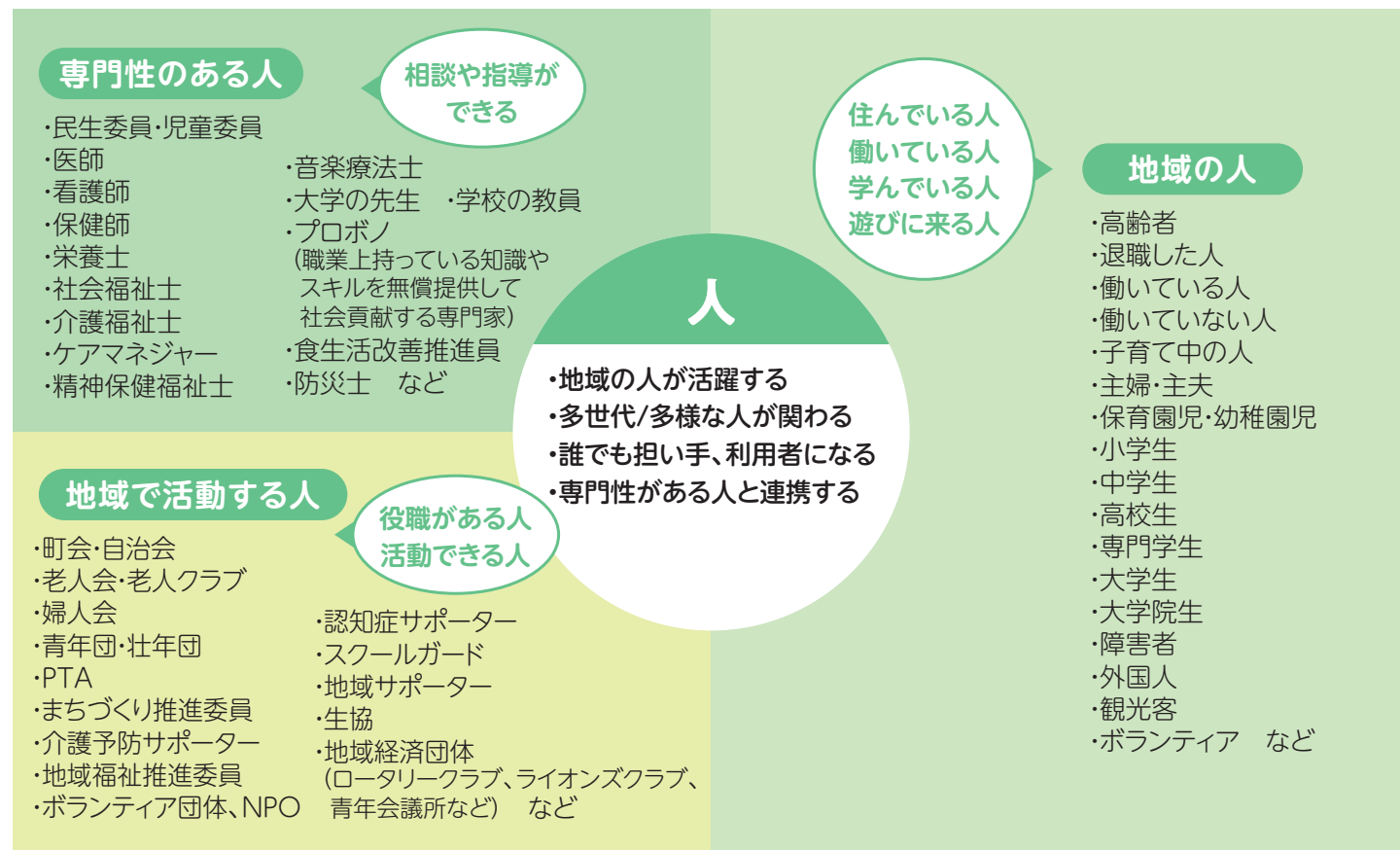


食事をしながらおしゃべり

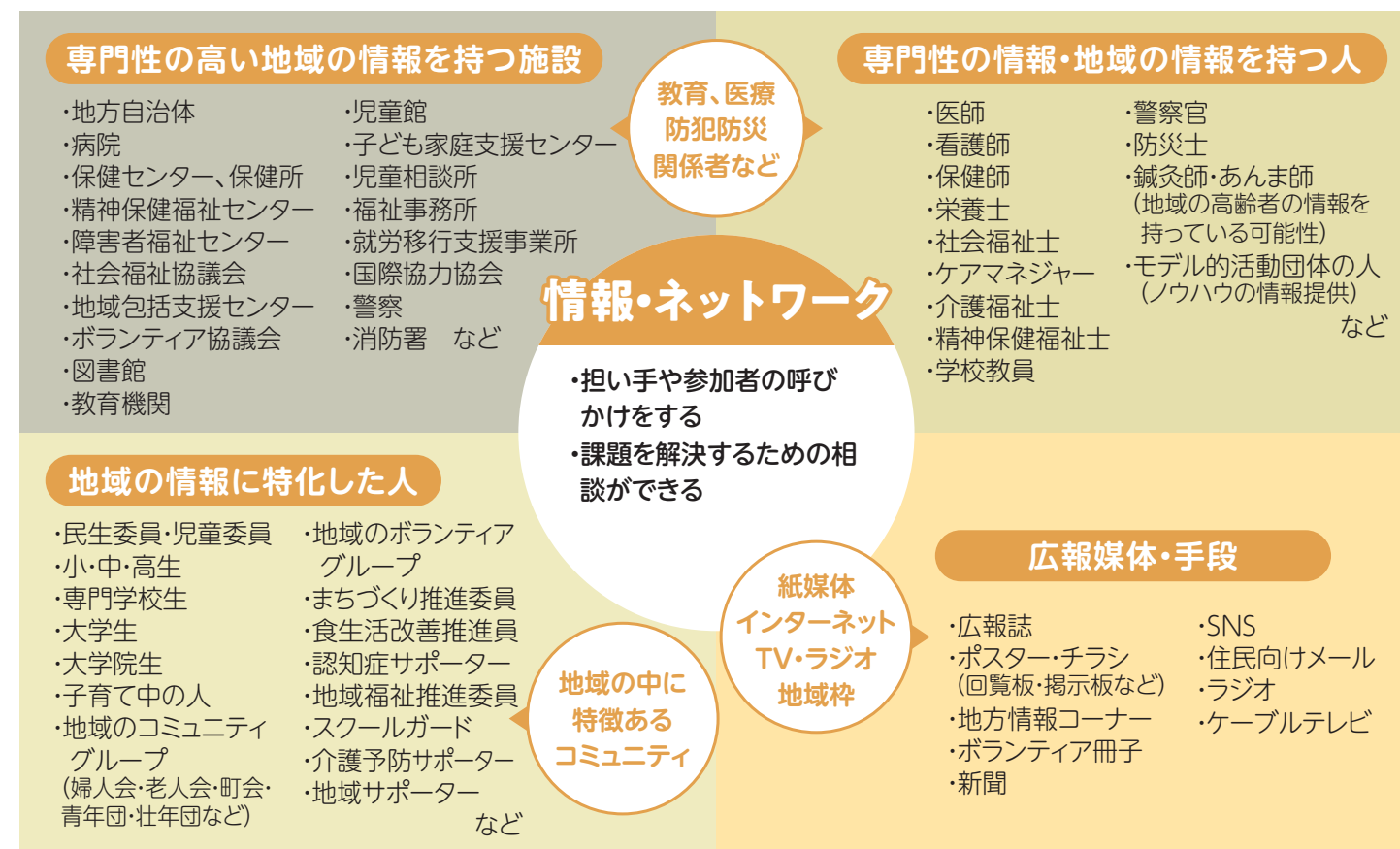
付録

地域資源マップ 支援メニューの例 地域資源の活用から 見た事例紹介

地域資源マップ



ヒアリング調査、ワークショップで伺った「自分の地域にある見えそうな地域資源」を参考に、アセット項目のカテゴリ別に作成しました。



支援メニューの例

支援メニューの例

支援計画を立てるときのガイドとなる支援策の例をアセット項目のカテゴリ別にまとめました。

人・担い手の支援	ボランティア説明会や担い手養成講座を開催する
	ボランティア説明会や担い手養成講座の参加者と活動団体のマッチングを行う
	力になってくれそうな人や団体(地域のキーパソン、町会・自治会、地域のボランティアグループ、事業者、教育機関など)を紹介する
	担い手募集を自治体・社協の機関紙やウェブサイトで広報したりポスター・チラシなどを掲示する
	担い手のスキルアップにつながる情報の提供や講座を開催する
	福祉・医療・介護などの専門領域につなげる
	後継者やリーダーの補佐役を育てるための支援をする
人・利用者の支援	対象者の情報を持っている機関や団体(地域包括支援センター、事業所、協議体など)を紹介する
	地域組織(町会・自治会、老人会など)を紹介する
	地域の保育園・幼稚園、高齢者施設、障害者施設などに紹介する
	利用者募集を機関紙やウェブサイトで告知したり告知したりポスター・チラシなどを掲示する
	送迎など、利用者のアクセスを支援する
	利用者が安心して参加できるよう同行するなどの支援をする
場の支援	公民館・集会所などの施設利用、予約などの手続きや情報を提供する
	活動に活用できそうな公共施設や空き家等を紹介する
	民間の貸し会場やシェアスペースの情報を提供する
	福祉施設、学校施設などの空き時間に使えるような場所の情報を提供する
	企業・店舗などの空き時間に使えるような場所の情報を提供する
	公共施設の利用料を減免する
	空き家・空き店舗の借り上げ金を補助する
	活動内容に合った設備整備の支援をする

人・担い手の支援 たとえば、担い手のスキルアップにつながる、衛生管理の情報を伝えたり、傾聴講座を開催するなど

場の支援 たとえば、店舗が営業していない時間帯で、活動に活用できそうな情報を提供するなど

モノ資金の支援 たとえば、フードドライブや地元のスーパーで、食材提供をしてくれる情報を提供するなど

モノ資金の支援	市町村内の利用できそうな助成金・補助金・委託金の情報の提供や、担当窓口の紹介をする
	国や都道府県の利用できそうな助成金・補助金・委託金の情報の提供や窓口の紹介をする
	民間助成団体が行う助成金情報を紹介する
	助成金等の申請への推薦や、申請書の書き方の助言をする
	広報誌やウェブサイトで地域に物品の寄付を呼びかける
	地域住民や企業からの寄付物品のマッチングを行う
情報・ネットワーク／運営状況の支援	リサイクル物品の仲介をする
	生活支援サービスの助成要件を見直す(条件を緩和するなど)
	地域の情報や課題、ニーズを団体に伝える
	地域内の意見交換の場を設定する
	協議体の情報を団体に伝える
	広報誌やウェブサイトで団体の活動を広報する
	活動発表の機会をつくったり発表者として推薦する(研修会での事例紹介など)
	活動事例や先進事例を紹介したり見学に同行する
	団体の活動内容に応じた中間支援団体を紹介する
	チラシ・パンフレットやホームページの制作を支援する
	自治体広報、地元紙、ローカルメディアに取材してもらうよう働きかけを行う
	医療・福祉・介護・教育機関など他領域との連携を支援する
運営基盤の支援	話し合いの場のセッティングや合意形成のサポートをする
	活動日に出向いてスタッフとして活動に参加したり、ミーティングに出席する
	活動プランづくりを支援する(運営方法や役割分担など)
	会則づくりや会計管理などの運営に関するノウハウを教える
	定期的に連絡を取り、運営状況を見守る
	事務局や問い合わせ先としての機能を担う
	定期的に交流会を開催したり、一周年、三周年などの記念日を設定して活動を盛り立てる
	ボランティア保険の紹介や手続きを行う
	活動継続が困難になったりトラブルが起きたとき、課題整理や助言を行う

地域資源の活用から見た事例紹介

地域の課題を解決したり、みんなで集まる居場所をつくった事例を、どんな地域資源を組み合わせることで実現したのかの視点からご紹介します。

「地域のことを考える地域住民」

×

「民生委員・児童委員の悩み」

=

+

「隣町のワンコインサービス活動見学」

ワンコインサービスの誕生

愛知県日進市 香久山ワンコインサービス

★活動概要★

香久山区（自治会）と連携し、香久山地区の住民が安心して生活できる環境を整えることを目的に住民に対して軽度な日常生活の援助など、地域住民から依頼を受け行っている。平成31（2019）年4月に活動がスタートし、サービス提供会員は約20人（大学生から高齢者まで。主に60歳代の男女が会員）おり、月平均6件の依頼がある。

★取り組みを始めた経緯★

当時の区長より「地域のことを話し合ったり、地域のためになにかしたい」といった相談があり、地域の福祉に関することを話し合ったり、仕組みづくりを行う「まちづくり協議会（まち協）」の設置を日進市社会福祉協議会から提案する。その後、まち協の設置に向けて準備会を開催したことを皮切りに地縁組織（老人クラブ、子ども会、女性の会、民生委員・児童委員など）の代表らと話し合いを重ねながら設置準備を進めていったが、初めからは区長も具体的なイメージが固まっていなかった。並行して、地域の民生委員・児童委員の中からは、住民からゴミ出しや移動支援などを頼まれることがあり、どこまでが民生委員・児童委員としての活動範囲なのかという悩みも社会福祉協議会では聞くことがあった。そこで、社協のコミュニティソーシャルワーカー（生活支援コーディネーター兼務）が区長と相談し日進市内の五色園区ですでに実施されていたワンコインサービスを見学したところ、活動のイメージが急速に固まった。

★市社協による団体への支援ポイントと配慮★

- ・住民活動をする上で、名前はできるだけ早く覚えるようにし会議や打ち合わせの際は“名前+用件”で声をかけるようにする。
- ・会議で反論が続くときは、「反論+代替案」を併せて発言することを提案した。
- ・見学などには、なるべく様々な考えの人に同行をお願いし、多様な視点の説明を地域ですていだけるように機会を設ける。
- ・会議で発言できる参加者が、会議外で意見をコミュニティソーシャルワーカー（生活支援コーディネーター兼務）に伝え賛同を得ようとしても会議などで発言していただくように働きかける。



「読み聞かせボランティア」

×

「近所の主婦」

=

+

「民間団体、企業の助成金」

図書館の設置

香川県琴平町 まちじゅう図書館

★活動概要★

「ことひらまちじゅう図書館」の活動は、琴平町内にあるカフェの店内や診療所の玄関脇、寺の受付などに「絵本ボックス」を設置し、まちのあちこちで自由に本を借りられる取り組みである。

また、大人と子どもが一緒に楽しめる「小さな居場所」をまちじゅうに設置し、人と人が触れ合うことで、まちの記憶を伝え子どもたちの郷土愛を育み、さらには大人の人々の生きがいがいづくりにもつなげている。令和元（2019）年12月現在、18ヶ所の図書館が活動している。



★取り組みを始めた経緯★

30～40代の子育て世代を含めた近隣の主婦たちにより、子どもの読書支援ボランティア団体「415（よいこ）のわ」の活動が始まる。活動の傍ら自主的に行った勉強会で、「サテライトライブラリー」が話題にあがったことから、元図書館司書が「415（よいこ）のわ」と一緒に取り組みたいと手を挙げ、「415（よいこ）のわ」から派生する形で「ことひらまちじゅう図書館」が立ち上がった。

資金面では団体メンバーが助成金獲得を模索する一方、琴平町社会福祉協議会でも助成金の情報提供や申請書作成のサポートを行った。また、琴平町社会福祉協議会が町内にある「おやじの会」とつなげて、「絵本ボックス」を制作してもらうなどが実現した。

★町社協による団体への支援ポイントと配慮★

- ・あくまでも住民が主体。支援者側からの提案が多いと“やらされ感”が出てしまう。住民から「やろう」と言ってくるのを“待つ”ことが重要。
- ・相談や悩みをキャッチした際は後回しにせずすぐに対応することで、困りごとが発生したときに声を上げやすい環境づくりをしている。
- ・活動に関わる人のモチベーションを下げないように声をかけ、「すごいことをやっていますね」と伝えることを心がけている。
- ・話し合いの際は、全体のバランスを考えてフォローする言葉を投げかけたり、批判的な発言が出たときは先に進める視点で発言したりする。

「商店街にある(現役)喫茶店」
 ×
 「医療生協診療所の組合員」 = 地域食堂

東京都荒川区 三ノ輪地域食堂

★活動概要★

一人暮らしや孤食をしている高齢者、特に男性を対象に月1回11時30分～13時まで地域食堂を開催。主催は東京ほくと医療生活協同組合汐入診療所、会場は「都電カフェ」(都電三ノ輪駅近くにあるジョイフル三ノ輪商店街の入口に立地する、現役の喫茶店)。診療所が主催のため栄養バランスを意識した食事を300円(参加費)で提供している。ボランティアは診療所の組合員、調理師・南千住西部地域包括支援センターの職員と包括から呼びかけたボランティア(軽度認知症のある方)も参加し、平均15名程いる。参加者は平均25名程である。



★取り組みを始めた経緯★

商店街で都電カフェを経営するオーナーが「お客さんが少ない午前中に、高齢者のための介護予防プログラムをやってもらえないか」と荒川区社会福祉協議会に相談したことがきっかけである。オーナー自らの認知症予防のためにも取り組みたい意志があった。都電三ノ輪駅から徒歩1分、商店街に入っすぐの立地、店内は広くてバリアフリーなど、好条件であった。早速、関係機関に情報を共有し、活動の立ち上げを模索した。高齢者福祉課の生活支援整備体制の担当職員が、汐入地区で汐入地域食堂を開催していた東京ほくと医療生活協同組合診療所に「三ノ輪地区でも地域食堂を開催してみてもいいか」と声をかけた。当初、お店の空き時間を利用するとのことであったが、台所の衛生面、時間的な制限の問題などがあり、お店の休日に行くことで解決するなど話し合いを重ねた結果、地域食堂をすることが決定。令和元(2019)年12月9日に三ノ輪地域食堂がオープンした。

地域の民生委員・児童委員の力を借り参加者の呼びかけを行うほか、買物に来ている男性高齢者に「寄っていきませんか」との声かけはしやすく、新たな参加者も増え、店舗で活動を行う良さを実感している。また、居場所に様々な人が集うことで、商店街のにぎわいにも寄与している。

★区社協による団体への支援ポイントと配慮★

- ・オーナーから話があった際、すぐに喫茶店に足を運び、会場や会場周辺の状況を確認した。
- ・会場のアクセスや広さなどの条件が良かった。得られた情報は広く関係機関に周知した。
- ・活動候補団体が現れた際は、見学や話し合いに同行同席し、マッチングが上手くいくように寄りそった。
- ・地域の商店街や民生委員・児童委員などにも情報を常に共有し、地域に認められる活動になるよう気を配った。
- ・活動を周知するためのチラシの作成支援と新聞掲載のサポートをした。

「空き店舗」×「地域住民」×
 「町会」×「近隣の大学生」 = コミュニティ
 + カフェ
 「市の助成金」

石川県金沢市 天親カフェ

★活動概要★

空き店舗(元酒販店)を活用して、町会員がコミュニティカフェを週1回運営している。スタッフの手作業により会場が装飾され、体操や手芸といったプログラムは用意されることなく集まっておしゃべりする居場所となっている。参加費は協力費として100円を寄付、飲み物とお茶菓子が提供される。また、近隣の大学生がボランティア講師となり、子どもを対象に学習支援を行っている。毎回5～6人の子どもが訪れている。月1回は、ワークショップなどのイベントを開催し、幅広い世代の交流拠点として地域のつながりを深めている。



★取り組みを始めた経緯★

町内で孤独死が発生したことを背景に、「町内でつながりが必要」と住民から声があがった。金沢市社会福祉協議会の職員が住民と話し合う機会を設け、課題の明確化と住民の思いの整理を行ったところ、「やっぱり交流拠点が必要」という思いがわかった。活動のイメージを固めるため、他の居場所の見学に職員が同行したのち、コミュニティカフェ開催を決定。場所は、元酒販店の店主の奥様が「今は使っていないから」と空き店舗を提供、住民の中から担い手となる中心メンバーも決まってきた。続いて運営資金を確保しようと、活動資金を得るために市の助成金に申請することになった。しかし、町会単位での申請が条件だったため、中心メンバー自らが提案書を作成し「町会活動として位置づけてもらえるよう」町会総会で提案し認められた。その後、助成金の給付が決定、会場の環境整備や広報活動などの準備が整い、令和元(2019)年8月に天親カフェがオープンした。

カフェオープン後、運営スタッフが話し合う中で、「高齢者だけでなく子どもにとっても居場所が必要ではないか」という声が出てきた。同時期に市が地域で行う子どもの学習支援教室に対する助成を開始したこともあり、運営スタッフの間でカフェのスペースを有効活用しつつ子どもにとって、家と学校以外の第三の居場所づくりをしようという話にまとまった。町内で子どもに関する活動に関心のある方の協力を得て、9月に学習支援の取り組み「天親カフェ寺子屋」がオープンした。

★市社協による団体への支援ポイントと配慮★

- ・地域活動は住民主体で活動することが望ましいため、「自主性」を尊重している。地域住民が必要を感じて、地域のことは自分たちでやろうと思い、納得・合意して取り組んでもらえるよう配慮している。
- ・職員による誘導はせず、行き詰った際は、選択肢を何案か提案するなどしている。提案する際は、図や絵で見せるなど、伝え方を工夫している。
- ・「こういう取り組みは面白いですね」「そういうのができたら楽しそうですね」「本当にすごいですね」「すてきな感じに仕上がりましたね」など頻りに褒める言葉をかけ、活動へのモチベーションが下がらないようにする。

「協議体」×「地区ネット」×
 「全国から参拝者が訪れる観光資源」×
 「観光協会・商工会」×「観光商工課」＝ 買物支援

香川県琴平町 こんぴら朝市

★活動概要★

身近な商店街にある店が年々減ってきており、高齢者が日常の買物に困るようになってきたことを背景に、買物難民支援を目的にした「こんぴら朝市」を開催している。会場は、全国から参拝者が訪れる金比羅宮の参道入口にある一之橋公園。第2・4日曜日の朝9時から正午まで、産直野菜や果物、パン、葛湯やコーヒー、ポップコーンなどを販売している。日用品のほか、観光客向けの物販もありにぎわっている。また、一人では外出が難しい高齢者も朝市に来られるように移動支援を行っている。



★取り組みを始めた経緯★

琴平町には、生活支援体制整備事業の協議体「ささえ愛こんぴら」や、民生委員・児童委員などの地区の役員、学校PTA、観光協会や商工会がメンバーになっている地区ネット「こんぴらアイネット」がある。どちらも琴平町社会福祉協議会が立ち上げ支援を行い、現在も連携しながら取り組んでいる。「ささえ愛こんぴら」や「こんぴらアイネット」で地域課題を話し合ったところ、高齢者が買物に困っていることがあげられた。平成30(2018)年秋、「こんぴらアイネット」で出た買物支援の課題が、協議体「ささえ愛こんぴら」に投げかけられたことをきっかけに、「ささえ愛こんぴら」を実施主体として朝市を開催することが決まり、その後2ヶ月に一度の話し合いを継続して内容を詰めていった。多くの参拝者が訪れる金比羅宮の参道入口にある公園を会場にできないかとのアイデアが出て、琴平町観光商工課に協力を要請したり、観光協会や商工会を通じて参加店舗の募集をかけたたりするなど、協働体制で準備を進めた。平成31(2019)年1月に第1回を開催し、以降月2回第2・4日曜日に行っている。

★町社協による団体への支援ポイントと配慮★

- ・住民主体の活動の事務局として、協働体制で臨んでいる。会議の進行や実現に向けての話のとりまとめを行うほか、使える物品や場所の情報、人と人をつなげる役割を担っている。話し合いのまとめ役として、「こんなことを言っていましたよね」など、話の呼び水になるような声かけをしている。
- ・何回もよく話し合う。話し合いの中で、住民から「いつまで話していても仕方ない、自分たちでやらなければ」という声が出るまで待つ。「社協が言ってきたから」では、やらされ感が出てしまう。
- ・話し合いの日程も住民に合わせる。社会福祉協議会で日時を決めて「来てください」というと、「行けません」という人が出てくる。
- ・活動がマンネリ化しないように、半年や一年の記念にいつもと違うことを提案するなど、盛り立てる工夫をしている。

「区長・民生委員など地域役員、有志(協議体)」

×
 「閉園旧園舎(幼稚園)」
 +
 「助成金」
 = 多世代の居場所

福岡県大川市 木室たんぽぽの会

★活動概要★

木室たんぽぽの会は、小学校区内の近所同士の付き合いが希薄化してきたことを背景に、地域に興味をもち「ひと昔前のような交流のある地域をつくろう」を目的とした、多世代交流の場である。



「お花見会」「味噌づくり」「七夕まつり」「お月見会」「さつま芋掘り」「防災訓練」など、年間を通して多種多様な交流イベントを開催している。また、毎週土曜日は、「たんぽぽカフェ(大人の脳トレ)」「たんぽぽ塾(小学生寺子屋)」を開催。「たんぽぽカフェ」では、脳トレや健康チェック、「たんぽぽ塾」では宿題やワークを行っている。また、企業からロス食品の提供を受け高齢者と子どもの交流クッキングも行っている。

★取り組みを始めた経緯★

大川市では、閉園になった幼稚園跡地の有効活用を検討していた。生活支援体制整備事業の委託を受けた大川市社会福祉協議会と育児サークルは以前から「多世代交流の居場所があったらいいなあ」という思いがあり、育児サークルのメンバーへ協力を依頼した。その後、地域の代表者、有志の方へ呼びかけ、協議体を結成。話し合いの結果、「様々な行事を通して顔の見える関係づくりをしよう」と方向性が打ち出された。また、卒園児の保護者たちが「木室幼稚園をこよなく愛する会」を立ち上げ、園の敷地内が荒れないように草刈りや掃除などを行っており、そのメンバーにも声をかけた。現在、活動メンバーは40名程。主要メンバーの区長、民生委員、地域の代表者、有志で、運営委員会を3か月に1回開いている。なかでも5名程が実行委員として、企画などの打ち合わせを頻繁にしている。

★団体から見た市社協からの支援ポイントと配慮★

- ・大川市役所健康課が考える対象は「高齢者」だったが、団体は「子ども」を考えていたため、当初すれ違いが発生した。しかし、委託を受けている社協と何度も話を重ねることで、「子どものためになるのと同じように、高齢者にもなにかできたら…」という思いへ変化していった。
- ・事務作業、情報提供、助成金申請、ボランティア依頼書の文書作成など、支援が必要な際は休みの日であっても迅速に対応してくれた。
- ・現場への同行なども常に気にかけてくれたおかげで、孤立感を感じる事がなく安心して行動できた。

「空き店舗(元喫茶店)」×「麻雀」
 +
 「住民の寄付」 = 麻雀サロン

愛知県長久手市 麻雀サロン「オリオン」

活動概要★

元喫茶店にて、健康麻雀や茶話会のサロンを月1回程度開催している。店主が元々麻雀好きだったこともあり、サロンには麻雀卓や囲碁盤が設置され、ゲームをしながら住民同士の交流が深まっている。
 参加費100円。平均して20名程度が参加。男性が多いが、最近では女性の参加者も少しずつ増えてきている。



★取り組みを始めた経緯★

以前喫茶店を経営していた80代の店主(男性)のもとに、見守りとして地域包括支援センターの職員が訪れていた。職員は、「現在使用されていない喫茶店のスペースを、なにかに活用することができないか」と考え、コミュニティソーシャルワーカーと生活支援コーディネーターに情報共有。地域包括支援センターの職員とコミュニティソーシャルワーカーと生活支援コーディネーターが連携し、元喫茶店主に空き店舗の状況を確認したところ「環境整備をすれば使用できそう」とわかった。そこで、元喫茶店主に「ご自分も楽しみながら、地域の交流の場としてみんなで集いませんか」と提案した。
 その後、月2回程度電話や訪問を行うなかで、「好きなことや趣味はなんですか」との質問に、「麻雀は長いことやっていた」とわかり、麻雀ができる居場所づくりに展開した。当初、元喫茶店主は「場所代は不必要」と考えていたが、地域住民の居場所として継続していくために「参加費100円」の徴収を勧めた。参加費の80%は水道や光熱費代、残りをお茶・お菓子代にすることを提案して承諾を得た。なお、麻雀牌・麻雀卓はすべて住民からの寄付で成り立っている。

★市社協、地域包括支援センターなどによる団体への支援ポイントと配慮★

- ・生活支援サポーター1名が運営サポートに入っていて、麻雀講師も兼ねている。今後、運営サポートの生活支援サポーターを増やしていくことで、開催の回数や時間も増やすことができ、交流の場として安定した継続を確立させることができるのではと期待を寄せている。
- ・個人所有の空きスペースの活用については、所有者だけではなく、取り巻く家族にも配慮をしながら取り組みを進めていかなければならない。
- ・元喫茶店主の意向を確認するには、信頼関係の構築が必須だったので、十分時間をかけて行った。
- ・麻雀牌、麻雀卓などの備品は、参加者から「電動麻雀卓を持ってきてあげる」と声があがるなど、住民からの寄付が多く助かったが、参加人数が増加すると卓が足りなくなり、他の喫茶店から借りたりしていた。この状況を参加者や他の喫茶店に伝えたところ情報が集まり、「使用されなくなったこたつ机」をいただいたり、「生活支援サポーターの中に日曜大工が得意な人がいて修繕してもらう」など、地域資源が繋がっていった。

地域住民の社会参加活動等を基盤とした
 互助促進の手法に関する調査研究事業

委員
 構成

研究委員会

(委員長)

内藤 佳津雄 日本大学文理学部 教授

(委員)

秋山 由美子 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所 理事

石田 惇子 一般社団法人 全国食支援活動協力会 代表理事

石橋 智昭 公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長

日下 直和 社会福祉法人 香川県社会福祉協議会 事務局長

鈴木 訪子 社会福祉法人 荒川区社会福祉協議会 地域福祉活動促進専門員

隅田 耕史 特定非営利活動法人 フェリスモンテ 事務局長

清水 洋行 千葉大学大学院人文科学研究院 教授

祐成 保志 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 准教授

高橋 良太 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 地域福祉部長

中島 智人 産業能率大学経営学部 教授

中野 智夫 長久手市福祉部 次長(福祉、長寿、子育て、保険医療、健康推進担当)

原田 晃樹 立教大学コミュニティ福祉学部 教授

平野 覚治 一般社団法人 全国食支援活動協力会 専務理事

松下 典子 特定非営利活動法人 ゆいの会 理事

三政 貴秀 小坂町福祉課町民福祉班

ワーキング部会

清水 洋行 千葉大学大学院人文科学研究院 教授

鈴木 訪子 社会福祉法人 荒川区社会福祉協議会 地域福祉活動促進専門員

内藤 佳津雄 日本大学文理学部 教授

中島 智人 産業能率大学経営学部 教授

平野 覚治 一般社団法人 全国食支援活動協力会 専務理事

令和元年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

基礎自治体や中間支援組織等による住民主体の活動を
促進するための手法に関する調査研究事業

生活支援コーディネーターが

「住民のやる気を支える支援の手引き」

一般社団法人 全国食支援活動協力会 編

手引き編集チーム

伊藤浩巳・齋藤志恩(一般社団法人 全国食支援活動協力会)

宮地成子(場所づくり研究所 有限会社プレイス)

デザイン カタヤナギユウイチ

イラスト 梶原香央里

一般社団法人 全国食支援活動協力会

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21

TEL 03-5426-2547 <http://www.mow.jp/>

発行日 2020年3月30日

